

## 平成26年 第17回帯広市教育委員会会議録

1. 平成26年8月5日火曜日 10時 ～ 16時30分  
帯広市教育委員会会議を帯広市役所 議会棟3階全員協議会室に招集する。

### 2. 本日の出席委員

教育委員長	田 中 厚 一
教育委員	市之川 敦 子
教育委員	門 屋 充 郎
教育委員	伊 藤 成 昭
教 育 長	八 楸 祐 子

### 3. 本日の議事日程

- |       |                                      |
|-------|--------------------------------------|
| 日程第 1 | 会議録署名委員の指名について                       |
| 日程第 2 | 議案第 58 号 中学校用教科用図書の採択について            |
| 日程第 3 | 議案第 59 号 高等学校用教科用図書の採択について【非公開】      |
| 日程第 4 | 議案第 57 号 小学校用教科用図書の採択について【非公開】       |
| 日程第 5 | その他 教科用図書の採択に係る情報の公表について【非公開】<br>その他 |

田中委員長

これから、平成26年第17回帯広市教育委員会会議を開会いたします。

出席委員は全員であります。

会議は成立しております。

ここで諸般の報告をいたします。

(服部課長 報告)

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、市之川委員及び門屋委員を指名いたします。

日程第2、議案第58号、中学校用教科用図書の採択についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

嶋崎 部長

議案第58号、中学校教科用図書の採択についてご説明いたします。議案書は3ページでございます。本件は帯広市立学校管理規則第41条第1項の規定に基づき、平成27年度に市内中学校で使用する教科用図書の採択をしていただくとするものでございます。平成27年度に使用する中学校用教科用図書の採択につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定により、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択することとされており、政令で定める期間は4年とされており、平成24年度から中学校で使用している教科用図書につきましては、平成23年度に採択替えを行っており、今年度が4年目となりますことから、平成27年度から使用する教科用図書につきましても、平成26年度と同一の教科用図書を使用することといたしたく、採択をお願いするものでございます。以上よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

これから質疑に入ります。

田中委員長

ありません。

各 委 員

別になければ、質疑を終結します。

田中委員長

お諮りいたします。議案第58号、中学校用教科用図書の採択については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認め、議案第58号は決定されました。

ここで会議の進め方についてお諮りいたします。

次の日程第3から日程第5の案件については、帯広市教育委員会会議規則第16条第1項第6号により、非公開にいたしたいと存じます。

これにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認め、そのとおり取り扱いたします。

これより会議を非公開といたします。

日程第3、議案第59号、高等学校用教科用図書の採択についてを議題といたします。

嶋崎 部長

議案第59号、南商業高等学校用教科用図書の採択についてご説明いたします。議案書は5ページからでございます。本件は帯広市立学校管理規則第41条第2項の規定により、平成27年度に帯広南商業高等学校で使用する教科用図書につきまして、学校長が選定いたしましたことから、採択していただくこととさせていただきます。また、参考として議案書7ページ以降に使用教科用図書を掲載しておりますが、今回は計36の教科書を選定いたしております。このうち昨年度からの変更点については、議案書11ページをご覧ください。学習指導要領・教育課程の見直しに伴い、「現代文A」「古典A」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」「英語会話」「ビジネス経済応用」の6科目を新たに選定しているほか、「世界史A」「日本史A」「現代社会」「音楽Ⅱ」「書道Ⅱ」「経済活動と法」これら6科目について、変更選定し、また、「国語表現Ⅱ」「現代文」「古典講読」「オーラルコミュニケーションⅡ」「ライティング」「国際ビジネス」の6科目につきましては、使用終了としております。選定につきましては、担当教諭による教科会議、教科主任によるカリキュラム委員会、全教職員による職員会議を経て、校長が選定したところであります。以上よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

田中委員長  
各 委 員  
田中委員長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第59号、高等学校用教科用図書の採択については原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第59号は決定されました。

日程第4、議案第57号、小学校用教科用図書の採択についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

嶋崎 部長

議案第57号、小学校用教科用図書の採択についてご説明いたします。議案書は1ページでございます。本件は帯広市立学校管理規則第41条第1項の規定に基づき、平成27年度に市内小学校で使用する教科用図書を採択していただくこととさせていただきます。小学校用教科用図書につきましては、昨年度文部科学省の検定が行われ、今年度は採択替えの年にあたります。昨年度の検定を経た教科用図書につきましては、去る6月3日に帯広市教科用図書選定委員会に諮問し、調査研究を行っていただき、7月15日に答申があ

ったところでございます。本日委員の皆様には、この答申に基づきまして、種目ごとに1種の教科用図書を採択していただくものがあります。なお、特別支援学級の教科用図書につきましては、帯広市においては、これまで文部科学省著作の国語、算数、音楽の3種目を使用してきたところでございますが、昨年度の採択以降も改訂がなされていないことから、平成27年度につきましても、平成26年度と同一の教科用図書を使用することといたしたく、併せて採択をお願いするものでございます。以上よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

田中委員長

これから平成27年度に使用する小学校用教科用図書の採択にかかる審議を教科ごとに行います。

最初に国語の審議を行います。

国語につきましては、5種から採択を行います。

それでは各委員からご感想やご意見を自由に述べていただきたいと思えます。伊藤委員からお願いします。

伊藤 委員

5種を一つ一つ見させていただきまして、その中から、東書、光村、教出の3種に絞りまして、私なりに分析させていただいたことを述べさせていただきたいと思えます。先に結論から言いますと、この3社中、東京書籍が私としては好ましいと思っております。その理由としましては、本市の子どもたちの国語に関する学力等について、様々な情報を耳にしておりますけれども、特に言語事項における部分が落ちているというようなことも言われております。それから、生活習慣、いわゆる家庭学習等についても若干の問題もあると言われておりますので、そういった観点を頭に置きながら、3点ばかりお話を申し上げたいと思えます。まず、取扱い内容について、話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと、これは国語の4領域と言われておりますが、特に読むことに関しての部分については、各社とも似通ったものでありますけれども、その中でも読みについて、子どもたちの興味・関心を抱かせるようになってきているように思われます。そのことの表れとして、単元ごとに読みへの発展につながる各種参考本の紹介が非常に適切に配置されているということだと思っております。特に「こんな本も一緒に」とか、「本は友達」だとか、「〇年生の本棚」とか、「本のひろば」など、そういった部分において、多くの読書本というか、そういった参考文献を十分に掲載されていることは、子どもたちにとっても読みへの深まり、あるいは読みへの興味・関心が培われると思っております。それと併せて、音読への取組みについても積極的に取り上げられておりますので、感情豊かな読みだとか、あるいは読み取るための音読とか、そういったことも含めて、この辺のところは十分に配慮されていると思っております。それから、先ほど申しました言語事項への配慮というこ

とで、かなり具体的に、そして子どもたちの興味・関心をそそるといったこと、言葉の力とか、それを広げるとか、振り返りを大事にしながら、かつ再学習も大事にするということを取り上げられており、また、これは保護者とともに、親子で学習しやすいといったことも感じられます。これは生活習慣の定着ということで、家庭学習への興味・関心もかなり広げられるのではないかと考えております。2つ目は、内容構成、排列、分量についてですが、入学してくる1年生にとりましては、学校生活や友達関係において、不安を抱きながら教室に来ているのだらうと思います。そんなところに、いきなりたくさん文字を教科書の中に掲示し、そして学習するとなると、かなり抵抗もあるだろうというようなことから、その辺の解消を狙うという意味で、学校生活を楽しいもの、あるいはそういったイメージを抱かせるということで、写真やイラストなどを存分に排列しているということではないかと思っております。そのことによって、小1プロブレムを取り除くような構成になっているのではないかと考えております。最後に、使用上の配慮ですけれども、單元ごとに手引きといったものを掲げられて、学びに対して、ブレが起きないように配慮されているのではないかと思っております。それから、「言葉の力」という部分には、他教科との学習の関連というものを大事にしているということで、言葉への広がり、あるいは興味といったものを抱かせるようになっているのではないかと思っております。そういったことから、教科書というのは子ども本位のものでありますけれども、各所において、教師にとっても指導しやすく、また、保護者にとっても、子どもと一緒に学ぼうというような姿勢を家庭にも投げかけていると思います。特に、裏表紙には「保護者の皆様へ」ということでかなり詳しくお願い事を書いてあり、これは非常に効率的あるいは効果的に家庭学習、あるいは自学自習といったことに繋がるのではないかとといったことから、東京書籍が望ましいのではないかと考えました。以上です。

田中委員長  
門屋 委員

ありがとうございます。続けて、門屋委員お願いします。

結論から言えば、私は光村図書を今回は選んでおります。5社のうち、いま伊藤委員が言われたように、東京書籍が「言葉の力」というようなテーマを掲げて一貫した流れで、今のご説明にあったようなことは関心のあるところでもありますけれども、最終的には光村図書と教育出版を私は検討したということになります。私が国語を見る場合に、基本的に人というのは、話す、聞く、読む、書くことが生きるために全ての基本となるものということから、十分に学習できるもの、高等というか高い水準を求めるよりは、基本的な部分をきちんと伝えられるかというようなことに焦点化して見ておりました。光村は導入部として、1年生の始まりは児童の学校生活の場

面を描く、他の教科書には、動物を描いたり、色々なことがありましたがけれども、本人の立場や関係性を自分に置き換えられる導入絵から始まっておりまして、現実を認識することとか、学校への適応準備への喚起などに配慮しているのではないかというように思いました。国語というよりも、学校生活のごく普通の生活の説明などに当然ある言語活動と、それらに伴う情動を刺激していることがいいと思ったわけです。光村は全学年を通して、生活と国語教育を深く結び付けているのが特徴とも感じましたので、光村にしたということにもなります。国語教科書としての構成と展開は、全学年一貫して表表紙の裏に、本で使われている「この本で学習するみなさんへ」という印の説明から始まるわけですが、これも繰り返し、学年ごとに示していて、分かりやすいのではないかということと、他の本でもありましたけれども、詩を載せて感性にまず訴えるというような内容になっていて、これも良かったと思っています。全学年を通して、「いつも気をつけよう」あるいは「話す」「聞く」「話し合う」ということがよく使われていますが、「書く」「読む」などを、3年生からは「〇年生の学習をみわたそう」というような学習の目的を明確にして示しています。3年生ぐらいになれば、全体の目標を持ってこの教科を学ぶということをここから示しているわけで、こういう示し方も私は気に入っております。そういう説明をすれば、大変分かりやすく、全体を見渡せて何を学ぶかを意識できると思います。教材の最後には、「よんでみましょう」といろいろな図書を紹介してくれたり、大切なものはこういうことだという「たいせつ」というコーナーを設けたり、「漢字の広場」で漢字をまとめて学べて、基礎的な知識などを習得できるようになっていたと思います。また、「言葉」というコーナーを設けて、熟語の成り立ちや言葉の意味、内容を説明するというコーナーがありまして、小さなコーナーですがけれども、内容の中ではなかなか取り上げないようなことをここで示していたように思います。巻末にいくつかのテーマを決めた文章を載せて、補完的に発展的に学習効果が期待できるように私は思いました。全学年を通して、「この本、読もう」として、読書活動を促しておりますし、本の楽しみを引き出そうということも感じました。日常生活の中の言語活動に気を付けていたように思いますが、児童の学校生活に関連する話題を取り入れて、関心を持たせ、国語学習の意欲を引き出そうとしていたと思います。例えば、クイズを出し合ったり、家の人に学校の生き物を知らせるための文章化など、現実や具体的な生活において、国語は大切な役割を果たしていることを理解させたり、実践させるには分かりやすいと思っています。教材では、星野さんの「森へ」は、自然の力とか人間とのかかわりを学ぶ上で良い教材だと思いましたが、資料ではありますが、6年生

の宇宙飛行士の野口さんの夢の文章は、現代的话题を取り上げて、関心と呼ぶことへの配慮をしていたというように思います。昔話の音読を体験させて面白いと感じたことを話し合わせるなどの活動を取り上げていたことも良かったと思いました。繰り返しになりますが、基礎的・基本的な読み、書き、話すなどは、全学年を通して学ぶことができるのではないかと思います、私は光村図書を推薦いたします。以上です。

田中委員長  
市之川委員

ありがとうございました。市之川委員お願いいたします。

私は東京書籍と教育出版と光村図書に絞りました。国語は一番悩みました。それぞれに良さがあり、まず、東京書籍は今回とても力が入っていると思います。分量も多くて、基礎的な習得を図る学習やコラムなども充実しており、北海道に関連した内容や伝統的な言語文化を取り扱った内容も多かったように思います。また、基礎・基本が楽しく学べ、児童が主体的に学習に取り組める工夫がなされている点、いわゆる学習しやすいという点では、教育出版だと思います。しかし、言葉の楽しさや魅力を伝えたり、幅を持ったり、取り組みによって、児童の想像力や感性を高め、豊かな確かな国語力が身に付くのは光村図書だと思い、結果的には光村図書を推薦いたします。まず、特徴ですけれども、光村では導入には文字を配置せず、児童のイメージを膨らませ、題材も友達や学校生活などの身近なところから入っております。そして、5、6年生では、合本にすることにより、中学へのスムーズな移行を意識した見通しの立つ学習の工夫がなされています。表紙のイラストは、タイトルと関連付けた大きな動物を中心に、小さな動植物にストーリー性を持たせて、児童のイメージを膨らませる工夫がなされていると思います。構成では、巻頭で一年間の学習の見通しを立て、巻末の「たいせつ」のまとめで、知識・技能の整理ができるようになっています。また、学習の取り組みとしては、初めに問いかけがあり、上段には読むための課題を、下段にはさらに広めたり深めたりする活用の課題を示すことにより、学びを深めることができると思います。日常生活の関連や北海道のことも取り扱っているため、児童の学習意欲を高める工夫がなされており、言葉の楽しさや感性を高める内容構成となっています。また、漢字についても、新出漢字を下段で掲載した後、単元の最後に再度掲載し、繰り返しにより定着が図れるような工夫がなされています。結論としまして、児童の想像力を広げ、言葉の楽しさを味わわせるとともに、幅を持った自由な取り組みによって児童の感性を高め、確かな国語力が身に付くと思われ、取り扱い内容も適切であり、関連図書も充実している光村図書を推薦いたします。以上です。

田中委員長

ありがとうございました。八鍬教育長お願いします。

八鍬教育長

国語については、人が生涯生きていく上で本当に大事な教科だと思います。そういった意味では、話す、人の話をしっかりと聞く、また、思いを書いたり、しっかりと読むという4つのバランスが取れているということが大事という思いから見ていきました。光村図書と教育出版に絞ったわけですが、最終的には教育出版を選定いたしました。特徴的に全体的に思ったのは、グループで児童同士が話し合う、あるいはテーマを決めてパネルディスカッションをするといった活動を通して、学びの目的、あるいは学びの意図に応じて、児童同士が計画的に話し合ったりすることができるような配慮がなされていると思いました。人の話をしっかりと聞いて、自分の言葉できちんと話していくところにも配慮がなされている取り上げ方をしていると思いました。また、資料を基に説明文書を書くといった活動を通じて、文書の構成を考えさせながら書いていくといった配慮がありました。また、論語あるいは漢文を上手に取り上げていて、慣用句あるいは故事成語などを調べたりして、日本語独特のリズム感といいますか、張りや響きなどを感じさせるような配慮があったと思います。また、コラムの中で、「ここが大事」というコラムがあったのですが、ここでは各学年の発達段階において、何が大切かということをしつかりと伝えながら、基礎的な知識、あるいは技能の修得を図るために、何が重要かという配慮が取り上げられておりました、大変丁寧だと思いました。また、十勝ということで、北海道との関連を見ていたのですが、6年生で伊能忠敬を取り上げていました。その中で、生き方、あるいは苦勞、また、業績などもしっかりと取り上げながら、北海道各地での足取り、あるいは伊能忠敬の苦勞なども通して、子どもたちに色々なメッセージを発していると思いました。また、2年生だったと思いますが、北国でのサケの成長についてこまめに取り上げるなどして、北海道に関連するような題材を上げて、児童にとって大変身近な題材を通して、知識の習得が図られるということで評価をしています。全体的に写真やイラストもまとまっております、国語科で大切な話す、聞く、書く、読むということをバランスよく取り上げているということで、教育出版を選定いたしました。以上です。

田中委員長

ありがとうございます。それでは最後に私の方からも発言したいと思います。今回、国語の教科書を読ませていただきまして、最終的には教育出版と光村図書のどちらかという感じになりまして、結論を先に申し上げますと、私は教育出版がいいのではないかと思います。確かに今お話もたくさん出ておりました、光村図書はかなりよくできた教科書で、私が一番感心したのは、掲載されている教材が非常に素晴らしいということです。適切かどうかは分かりませんが、非常に感動的な教材を数多く掲載していて、児童の豊かな感



性を磨くように、明らかに意図して作られているというような印象を持ちました。教育出版は、いろんな要素が手際よくバランスよく配置されているという印象を持っています。先ほどお話がありました、読み、書く、聞く、話すというようなことは、バランスよく入っているという印象を持ちました。しかもそれが、系統的に手際よく配置されておりますので、児童、あるいは先ほど保護者というお話もありましたけれども、教師にとっても、指導する上で、今やっていることが次にどう繋がっていくか、ということをも多分想定しながら指導できるのだろうというように思いました。教師の側の準備ということをかなり明確に意識されているというように感じました。先ほどの話に戻しますが、五感、全体を使って国語を学ぶべきであるという姿勢が色濃く出ていたのは教育出版だったと思いました。また、教育長からの話もありましたけれども、文章の書き方自体も徹底的に作り込んでいる節があって、文章力をどう付けるかということ構成ですとか、言葉の選択から含めて、色々書かれているなという感じがしました。もちろん他の教科書もあるのですけれども、かなり意識的に教育出版はやっているなという印象を持ちました。それから、さっきお話がありましたが、どの教科書もそうなのですが、写真やイラストが美しいとか綺麗で興味・関心を引くような作り方になっていると思いました。それから、細かなことですけれども、図書館の利用の仕方ですとか、あるいは日本古典に関して、先ほど教育長が漢文、論語の話をされていましたが、あと日本古典もしっかりと掲載されておりますし、私が感心したのは、6年生の上のところで、コミュニケーションの話が確か教材として出てきているのですけれども、先ほどの門屋委員じゃないのですけれども、コミュニケーションの問題をどうしても意識するような世代に入っていきますので、あるいは人との関わりについて、ああいうものを使って指導していくと中1ギャップのようなこともクリアできるのかなと思いつつ読んでおりました。さらに他の教科書にもありますけれども、読書活動の啓発もきちんと踏まえて書かれておりました。全体的に、繰り返しですけども、どの教科書も基本的には指導要領に則った上できちんとして作られておりますので、より良いものということ言えば、バランスのいい教育出版かなと思って選んだ次第でございます。私の発言は以上ということになります。

田中委員長

他になれば、以上で発言は終了いたします。

皆様のご意見を伺っておりますと、東京書籍1名、光村図書2名、教育出版2名ということになりました。これは基本的には全会一致ということを目指しておりますので、少しご発言、議論を重ねてまいりまして、それで絞り込むことができればと思っております。それでは、伊藤委員、今のお話を聞きながら何かありますでしょうか。

伊藤 委員

国語の採択に関しては、非常に難しい部分があるのですが、私も先ほど申しましたように、最終的に5種中3種に絞りまして、その中でも順位を自分なりにつけて分析させていただいたつもりです。東京書籍については、私だけですが、3社中、残った2社についても分析をしていますので、その辺ちょっとお話申し上げて、参考にさせていただければなと思っております。光村、そして教出ですけれども、いずれも素晴らしい部分がたくさん載っておりますが、私としては最終的には、この2つのどちらかにするかとなった場合、検討している間においても、教出がいいのではないかと考えていたわけですが、そこで、なぜそうかと言いますと、ただ今、お二方から教出に関する良さについて述べられたことは全く私も同感です。そのほかに、私なりに、言語事項について少し関心がありましたので、その辺のところについて2社を比べたら、言語事項に関する取り扱いが非常に丁寧になっているということが言えるのではないかと思います。特に、帯広の小学生の語彙不足というのは非常に顕著に現れている部分があるかと思っておりますので、語彙不足解消のための方策というのが、特にお二方からはなかったのですけれども、巻末に付録という形で言語事項に関する集大成のようなものを学年ごとに配置し、その中でも特に「言葉の木」というのがありました。その中に学年に見合った語彙、あるいは語彙を系統的に分析して掲載しております。例えば、同義語とか、あるいは反対語、慣用句、和語、漢語、外来語といったものを1つの木に例えてまとめられています。それを見ることによって、先生も子どもも語彙の広がり、あるいは語彙の使い方を学ぶということでは非常に効果的ではないかなと思って見ておりました。それからもう1つは、NIE、新聞を通して学んでもらおうという配慮も的確になされているのではないかと思います。子どもの日常生活の中に新聞というのは、非常に重要な部分だと思っておりますので、その辺を取り上げて日常言語に関すること、あるいは話題性のある言語に関することの興味を持たせるといったこと、それから僅かではありますが、アイヌの言語につきましても、若干触れられているということもありますので、そういった観点から言語事項を重要視するという私の考えに、2つの教科書を比べたら教出の方が望ましい配慮、あるいは内容になっているのではないかと思いますので、教育出版を次に推薦したいと思っております。

田中委員長  
門屋 委員

ありがとうございました。門屋委員いかがですか。

難しいですね。田中委員長が言われたように、確かに光村は感覚的で感性に訴える傾向が非常に強いと感じました。私自身が感覚的な人間なのかもしれないですね。今、伊藤委員が言われましたように、私も教出と光村を検討させていただいたので、教出の中身

はお二人の方のお話は本当によく分かります。今、伊藤委員が言われたように、新聞を取り上げたりしているのも、現実生活の中でどういうふうに広げられるかということとはとても大事なことでして光村のことを見ていましたので、そのことがとても感心をしていました。巻末の話も今ありましたけれども、巻末はそれぞれの教科書に色々と工夫されている中でも、教出は確かに中身が濃かったと感じてはいたのです。だからと言って、光村と教出のどちらかということになれば、なかなか自分が選んだことから言えば難しい状態で、少し考えたいと思います。

田中委員長  
市之川委員

わかりました。市之川委員、議論を聞いていていかがですか。

そうですね。私も伊藤委員の推された、東京書籍がかなり今回は良いのではないかと思いましたが、教育出版ももちろん良かったし、3社で迷ったのですけれども、光村図書はちょっと自由な発想から想像力を膨らませて、非常に国語に興味を持たせて力が付くのではないかと思って選んだのですけれども、もちろん教育出版は学習の手順や基礎・基本がきちっと定着して学習に取り組みやすく、バランスもいいという点では教育出版かなとも思いましたので、少し迷いましたけれども、教育出版にすることには異論はありません。

田中委員長  
八鍬教育長

教育長、今の議論を聞かれています何かありませんか。

学習指導要領を踏まえての各教科書ですので、本当にどの教科書も甲乙付け難いという思いで皆さん悩まれたというふうに思いながら聞いておりました。皆さんの中に、やはり光村図書に対する評価もいろんな意味で高かったという思いがありました。自分が教育出版を話させていただいたのは、先ほど述べたとおりでございます。それと先ほど伊藤委員がおっしゃったNIEを通した学習は、なかなか子どもたちが新聞に馴染みが薄くなってきたという意味では、丁寧に取り上げていて、改めて、そこは良い点だなと思いますので、再度教育出版が良いと思っています。

田中委員長

ありがとうございます。私も先ほど申し上げましたことに付け加えることはないのですけれども、どちらがいいかなと思ってはおりました。

それぞれもう一度話を伺いました。もちろん全会一致になるまで延々と議論しても悪いことはないのですけれども、今、伊藤委員、市之川委員の方で教育出版を良いのではないかというお話も承りました。門屋委員の方からは選んだ以上変えられないというお話であります。それはもちろん責任をもって採択するという意味で言えば、当然のことでございます。それでは、教育出版を推されている委員の方が4名、それから門屋委員の1名が光村図書ということですので、教育出版を採択するというところで、門屋委員よろしいでしょうか。

門屋 委員  
田中委員長  
各 委員  
田中委員長

はい。

それでは、教育出版を採択するということにご異議ありませんか。  
異議なし。

それでは、異議がないようですので、採択理由を確認するために、  
暫時休憩をさせていただきますと思います。

(暫時休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。

「国語」の採択につきましては、『国語の基礎基本となる「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のバランスが取れており、きれいな写真とイラストを用いて、児童が五感を使って学ぶことができるとともに、言語事項に関することが丁寧に取り上げられ、語彙を系統的に学ぶことができるようになっていること。グループで話し合う活動、テーマを決めてパネルディスカッションをする活動、説明文を書く活動など目的や意図に応じて、話し合ったり、書いたりすることができるようになっていること。「伊能忠敬」の伝記、「サケの成長」「アイヌの言語」など、北海道に関連する記述があり、児童にとっても身近な題材を通して人の生き方や知識の習得が図られるようになっていること。論語や日本の古典などが多く掲載されるとともに、慣用句や故事成語調べなど、日本語独特のリズムや響きを感じられるようになっていること。コラム「ここが大事」では各学年の発達段階において、大切なことを伝えながら、基礎的な知識・技能の習得を図るために、必要な注意点を取り上げるとともに、6年生の学習では、人との関わりやコミュニケーションを重視し、中学校の学習につながるよう配慮されていること。図書館の利用法をしっかりと学ぶことができるようになっており、児童の読書活動につなげる工夫がなされているとともに、新聞を活用した題材を取り上げるなど、児童の日常生活と結びつける配慮がなされていること。』などの点から、発行者、教育出版の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に書写の審議を行います。書写につきましては、6種から採択を行います。それでは各委員からご発言願います。伊藤委員お願いします。

伊藤 委員

私はまず、3社を選びまして、最終的にその中から1社というような形で進めさせていただきました。光村、東書、教出ということで、最終的には教育出版を選ばせていただいております。国語の方では東書なのですが、本来ならば関連ということで東書を選ぶところでありましてけれども、教科書をつぶさに散見させていただ

たところ、書写というのは3年生以上から毛筆が入ってくるということで、どちらかという子どもにとり苦手意識が非常に強くなる傾向があります。教師側も指導しづらいとか、あるいは教師自身が苦手だということもあるようですけれども、3年生以上から苦手意識の強い毛筆が入ってくるということで、その点を解消できるような編纂になっているかどうかという観点で見させていただきました。教出につきましては、文字のいわゆる原理原則をきちっと押さえて、しかも、硬筆と毛筆の関連を十分に捉えているということに相当なページを使い、あるいは工夫もされていると思います。いわゆる毛筆から硬筆へ、硬筆から毛筆へという部分が非常に顕著に大事に扱われております。この書写というのは、どちらかというスパイラル学習というか螺旋的学習というのが非常に重要なものですから、その辺が非常に大切に扱われております。特に、試し書きをまずして、自分の書いた文字に関して分析をさせて、それで学習を進めていきながら、二度三度の試し書きをし、段々とそれが修正されていくところに書写の非常に重要な部分があり、楽しさがそこから芽生えてくると思います。結果的にはまとめ書きという形で整った文字になっているかどうかということをおぼろげに学ぼうとしています。そういう形で進められていることは、教出の編纂については、非常に力を込めていると思見させていただきました。さらに書写で学んだ文字、字形を一般の自分の生活の中で活かせるようにするために、はがきや手紙、あるいはポスターなど、様々な日常生活や学校生活の中でそういった学んだことを活かせるような配慮も十分になされているように思っております。さらにその本の巻頭においては、学習の進め方というものをきちっと捉えさせて、そこから学ばせようという目的意識をしっかりと押さえている教科書ではないかと思ます。そういった観点から教育出版を推薦したいと思っております。以上です。

田中委員長  
門屋 委員

ありがとうございます。続けて門屋委員お願いいたします。

私は国語には光村図書を選んだので、6社のうち光村と教出と東書の3社を比較することにしまして、最終的には東京書籍を選びました。光村は基本に忠実なのですけれども、関心を高める工夫がもう少しあってもいいかなと思、光村を外した理由をここで申し上げておきます。東書が一番大きな変型判でしたので、読みやすく感じたということも1つありますし、低学年の2年間には「できたよシール」というシールを使っていて、幼児期に関心を持っているシール貼りのようなものから入るとするのは、私は良いのではないかなと思しました。鉛筆、筆の持ち方や姿勢についても他社の中には中指の置き方に少しわかりづらいものがあったりしたと思は思っています。東書は分かりやすかったと思っています。これは他

の教科書にも多くありましたけれども、手本の字を左側1ページに大きく書いて、右側に解説を載せていたというようなことも分かりやすかったと思います。1年生でカタカナを取り上げていなかったのは、今時の子どもの知識からして既に知っている子も多いと思いますし、実際にはカタカナの書いた文書もあったのですが、実は東書は取り上げていなく、むしろ取り上げた方が良かったのではないかと考えていました。1年生から6年生まで「書いて味わおう」というようなコーナーを設けていまして、「花さかじいさんの歌」とか「いろは歌」とか「俳句」とか「百人一首」とか「竹取物語」とか「論語」を取り上げていたのも興味深く思いました。1年生から字を書くことを実用として取り組ませているってことの配慮と字を書く意味を理解する上で大切なことだと思ったわけです。字を書くことが大変少なくなっている時代に書写を学ぶ意味をどのように伝えるかについては、私はかなり難しいのではないかと、あるいは難しい時代になっているのではないかと考えています。しかし、書初め、はがきや手紙などあまり書かない現在でも、観察記録や手書きの案内など「手書き文字で伝えよう」というコーナーを設けていて、手書きの良さや親しみやすさ、その人らしさなどを学んでくれることを期待できて良かったと考えています。ローマ字を扱っていない教科書もありましたけれども、東書は3年生から6年生まで巻末の付録に「ひらがな」「カタカナ」「ローマ字」を一貫して載せ続けていて、これも大変見やすく大事なことだと思った次第です。以上の理由で東京書籍を推薦いたします。

田中委員長  
市之川委員

それでは市之川委員お願いいたします。

光村図書と教育出版を比較しましたがけれども、書写というのは技能教科であり、頭で理解していても実技に移せなければ達成したとはいえない教科だと思っています。私は国語との関連から光村図書を選びました。特長として、光村の書写は書くことの楽しさを伝え、書くことが好きになるような教材だと思います。また、書写を学ぶ意味やその活用などを通して、書写の力が確実に付いていき、日常に広がっていくように構成されており、児童の学習意欲を高める工夫がなされていると思います。国語で学習した後に漢字を掲出して、国語との関連性をもった教材を掲載していたり、巻頭には「学習の進め方」、巻末には学習のまとめや資料を掲載し、学習に取り組みやすい工夫がなされていると思います。児童が課題を選択して、学習できる教材を設定していたり、自己評価欄を設けたりするなど、児童が主体的に学ぶことができるような工夫もなされています。毛筆は姿勢から手順、後片付けまで丁寧で硬筆との関連、さらには日常に生かせるように工夫されています。書初め教材を設けたり、低学年の新出漢字には筆順番号と読み方を示したり、6年生の資料に

は毛筆補充教材を設定したり活用しやすい工夫もなされています。以上のような理由で、全体的に丁寧な指導がなされていて、書くことの楽しさを伝え、書写の基本的な力が付くとともに、日常に広がっていくような構成になっていること、また、国語との関連から光村図書を推薦します。

田中委員長  
八鍬教育長

それでは、八鍬教育長お願いいたします。

私は、国語の教科とのつながりも視野に入れながら全体を見ました。毛筆については、私たちの小さい頃とはごく普通に習っていたような気がするのですが、今は身近な生活から薄れてきている感があります。そういった意味では、もしかしたら学ぶことができる期間というのは、とても限られた大事な時期なのかなと思い、そういった意味では楽しみながら、なおかつ正確に学習できる観点が大事だと思っています。結論としては教育出版を推薦します。文字の成り立ち、あるいは筆の運びなど、初めて筆を持つ子どもたちにとっても大変分かりやすく解説されていて、興味あるいは楽しみを持ちながら、正確な表現ができるような配慮がなされていると思いました。また、毛筆と硬筆との関連はとても大事だと思っています。そういった意味では、毛筆と硬筆のつながりを持たせながら、両方を関連付けながら学べるという工夫がなされていると思いました。また、毛筆で学んだことを生かして、さらに硬筆での書写の基礎を身に付けていく工夫がなされている内容になっていると思いました。また、自分の経験も含めてですが、姿勢とか筆の持ち方、あるいは机の上のどこに何を置くかということも大事だと思しますので、毛筆では机の上の整理のあり方、あるいは用具の扱い方、そして、書くときの姿勢について、写真で本当に分かりやすく的確に示されていて、基礎・基本をしっかりと定着させるような工夫がなされていると思いました。以上の理由で教育出版を推薦します。

田中委員長

それでは、私から最後に発言をさせていただきます。もちろん国語という科目との関係性もあって、結論から先に申し上げますと、教育出版を選択いたしました。ただ、教育出版が一番素晴らしいとは単純にいかないなというところも実はございまして、最終的には6社の中から、光村図書か教育出版というふうに考えました。非常に対照的な教科書だと思って見ておりました。大雑把な言い方をすると、光村図書は文字をいかに綺麗に上手に書くかというところに特化し、こだわった形で教科書が構成されているように感じました。非常に明確な目的意識があるなという印象をまず持ちました。一方、教育出版は、今、皆様方のお話にもありましたけども、書写という科目のあり様とか、未来を考えていった時に、果たしていつまで鉛筆を持って書くといった時代が続くのかといったことも恐らく想定した上で、いかに色々な知識を書写の中に植え付けていくというこ

とを踏まえて、色々な知識をあちらこちらに点在させながら教科書作りがされていると思いました。簡単に言えば、非常に楽しみながら学習ができるような形になっていると感じました。もちろん毛筆だけでなく、硬筆もありますし、色々な教材を使って書くということ、あるいは表現するという点に関して、こだわりを持った教科書になっていると思いました。どちらかを選ぶということになると、私は教育出版かなと思っておりました。東京書籍の話も出ていたので申し上げますと、シールの活用のことを門屋委員がおっしゃっていましたが、私も非常に面白い取り組みだと思っておりました。話を戻しますが、私は教育出版がいいのではないかと思います。

田中委員長

他になれば、以上で発言は終了いたします。

各委員のご意見が少し分かれております。教育出版が3名、東京書籍が1名、光村図書が1名となっていると思います。先ほども申し上げましたが、国語の教科書との関係性も否定できないということもありますので、そのことも踏まえて、改めてご発言していただければと思います。門屋委員からよろしくお願いします。

門屋 委員

教出も光村も検討させていただいたので、そういう意味では教育出版も、今、田中委員長が言われたように、確かに広く書写に限定していないという意味で言えば教育出版だろうと思いました。時代的にあまり使わないものでも、広げておいて、しかし、こういうふうに使おうではないかという理解をさせる上では、教育出版は確かに良いなと今確認していたところですよ。

田中委員長  
市之川委員

市之川委員はいかがですか。

国語との関連から光村図書を選ばしていただいたのですけれども、教育出版も改めて見ますと、すごく指導が丁寧で児童にとっても分かりやすいのではないかと思います。国語との関連で先ほど教育出版でしたので、書写も教育出版でよろしいかと思います。

田中委員長

皆さんにご発言いただきたいと思いますので、伊藤委員、今のご議論聞いていていかがですか。

伊藤 委員

妥当だと思います。

田中委員長

教育長いかがですか。

八鍬教育長

よろしいです。

田中委員長

それでは、議論の結果、書写の採択すべき教科書は教育出版で全員一致いたしました。教育出版を採択するという点にご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認めますので、採択理由を確認するため、暫時休憩いたします。

(暫時休憩)



田中委員長

再開いたします。

ここでお諮りいたします。書写の採択につきましては、『書写を学ぶ目的が明確であり、文字の成り立ちや筆順、組み立てがわかりやすく解説されるなど、文字を楽しく正確に表現できるように配慮され、文字への興味関心が高まるように工夫されていること。硬筆と毛筆のつながりが大切に扱われ、両方を関連づけて学習できる工夫がなされていること。「ためし書き」で学習ポイントを自覚した上で練習を重ね、「まとめ書き」につなげていく学習過程により、スパイラル的に学ぶことができるよう工夫されていること。学校生活や日常生活などとの関わりのある題材を網羅し、ポスターや手紙、はがきなど、学習したことを様々な場面で活用できる内容が取り上げられているとともに、他教科との関連を図ることができるよう学習への工夫が広くなされていること。机上の整理の在り方や、用具の扱い方、書く姿勢などが写真でわかりやすく提示されていて、繰り返し確認でき、基礎基本をしっかりと定着させる配慮がなされていること。』などの点から、発行者、教育出版の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に社会の審議を行います。社会につきましては、4種から採択を行います。それでは各委員からご発言願います。まず伊藤委員からお願いします。

伊藤 委員

私は東京書籍と教育出版の2社に絞りまして検討させていただきました。結論から言いますと、東京書籍が好ましいのではないかと考えております。その理由といたしましては、社会科というのは地理教材あるいは歴史教材、公民教材等がそれぞれ学年配当されていて、それらを通して公民的資質を養うというのが大きな目的であります。それと学習過程においては、問題解決的な学習がしやすいように組み立てることが望ましいと思いますので、東京書籍につきましては、そういった配慮が十分になされていると思います。特に5年生の単元で十勝地方を9ページにわたって取り上げられ、子どもにとっては非常に親近感のある学習につながっていくのではないかと考えますし、それをヒントに様々な地域の暮らしへの関心、あるいは探究心も広がって、やがては広い意味の郷土愛といった形で育成されていくようになるのではないかと考えます。そういったことから、北海道・十勝地方をかなり重点的に押さえていただいているというのは非常に効果的ではないかと考えます。さらに北海道の関連内容としましては、アイヌ民族に関しても豊富に取り上げられておりますので、その歴史や文化、あるいは課題などもリアルに学ぶことができると思います。防災教育に関わりまして、非常に豊富

に取り上げられて、子どもにとっての切迫感とか緊迫感といったものを学ばせながら、郷土保全あるいは生命財産を守るための課題意識や解決方法を見出すのにふさわしい内容ではないかと思ひますし、それぞれの学年あるいは各領域、単元ごとに各種体験談ですとか、あるいは経験談、あるいはその道の関係者によるお話しなどがコンパクトに出されておまして、現実感というものを子どもに感じさせ、そこから課題の広がり、あるいは課題の解決への手がかりになるのではないかと思ひます。今日的課題についても、両論併記といった形で表記されており、子どもに適切な問題意識を持たせながら、そのことについて学んでいくようになっていくのではないかと思ひておられます。いずれにしても、社会科特有の比較事例といったものを十分にセッティングしながら、学習をさせようというような形になっているのではないかと思ひておられます。それから、学習の進め方について、非常に具体的に明示されていて、学習への見通しが付けやすいように配慮されていると思ひます。特に学んだことを生かすという部分がこの社会科では非常に重要な部分で、実生活にそれを生かしていくことが大きな目標でもありますので、そういった部分の「ひろげる」「ふかめる」といったコラムを掲載しながら、実生活の関連で社会科というものを学んでいこうというようになっていくのではないかなと思ひます。併せて保護者へのメッセージも書かれており、6年生であれば、中学校との関連といったことも十分に適切に導かれるような形で内容あるいは排列等が配慮されているのではないかなと思ひます。最後に、IT、インターネットへの興味・関心、あるいは適切な取り扱いについても、併せて指導することにより、自学自習をするための手立てをインターネットを通して学ばせることもできるのではないのかという配慮もされていることから、東京書籍が好ましいと考えておられます。以上です。

田中委員長  
門屋 委員

ありがとうございました。続けて門屋委員お願いいたします。

最終的には東京書籍、伊藤委員と同じように選びました。迷ったのは、十勝地方のことは先ほど9ページとおっしゃったように、確かに気候のところでも取り上げられ、その後、寒い生活のところでも取り上げられておりました。これがいいのかどうかと実は考えてしまいました。と言うのは自分たちの所だから、むしろ調べるということ、分かっていくということでもいいのかなと思ひたのですが、あれだけ書かれると関心を持ちました。東書だけではありませんけれども、社会科の始まりは学校を中心に街を探索していくというようなことで、社会というものを意識するようになります。東書では「つかむ」というようなことから、子どもが感じるつかみ方から「調べる」ことにつなげ、「調べる」を深めて「まとめる」こととしていて、こういった一連の子ども中心に関心のあるところから能

動的に学んでいけることに配慮していたというふうに思います。文章には必ず小学生たちが登場していて、児童が感じたことや疑問、質問、感想に加えて、自分で調べたことなどを発言させて、これは身近に感じるものでもありますし、自分たちもそうやって感じるだろうと自覚できることもあるので、それらに沿って展開していく学習プロセスは、問題意識を持つことができるということからいって、良い手法だと感じました。余計なことですけども、そこにドラえもんとのび太が出てくるのですが、悪くはないなというふうに思っておりました。それぞれのテーマごとに現場の人を登場させて発言しているのも、一番多かったように思います。他の教科書でも取り上げてはいるのですが、人の暮らしや働きなど、人と自然によって創られている社会であることを常に意識させているように感じましたし、社会を学ぶ上で人が中心であること、人なくして社会は成り立たないという気がしています。遠くの人々の作ったものを自分が使っている生産関係の仕組みや社会関係の大切さを学べると感じました。これらは全学年に共通した構成となっていますけれども、単に知識を伝えるというよりは、子どもの気付きを大切にしていたと思います。所々のコーナーに「ことば」と「解説」が載っていて、一口知識として深めるヒントを与えてくれていたと思いますし、「ひろげる」というコーナーの中では、「社会を変える情報」というのが5年生の中で、6ページにわたり詳しく取り上げるなど、こういう視点は良いのではないのかと思います。全体的に写真やイラストなどが多くて、本文が少ない感じもしましたがけれども、総ページ数が4社の中で最も多くて、現在使用している教出より86ページ、1年生から6年生まで合わせると多かったというふうに思います。情報量が多いのが良いということではないですし、子どもには負担になるかもしれませんが、教えるときの選択の幅が広がるということからいえば、子どもによって関心を向けるチャンスが広がるということで情報量はそれなりに意味があると思います。テーマごとの内容には少し不足や取り上げ方の弱さを感じることもあり、社会問題の取り上げ方が全体に少し弱いかなと思いました。十勝のことが書かれていて、まず、帯広市が気候の所で取り上げられ、「寒い土地の暮らし」として紹介されていたわけですが、昔から暮らしていたアイヌの人々の暮らしへつなぎ、アイヌ文化へとつないでいったこと、アイヌ文化の継承を呼び掛けているという一連の流れが私は大変良かったと思っています。最後の方で情報化のことが先ほど伊藤委員からも話でしたが、ITについて、私はもう少しテクノストレスにさらされている現代の子どもは、テクノ依存、あるいは色々な病理があるわけで、このあたりのことももう少し取り上げて欲しかったなと感じています。推薦する図書なのに不満をい

くつか申し上げましたが、全体を通してこの教科書がよろしいと思  
いました。

田中委員長  
市之川委員

ありがとうございました。続けて市之川委員お願いいたします。  
教育出版と東京書籍で大変迷いました。結論から言うと東京書籍  
を選びました。どちらも随所に工夫が施されており、甲乙が付け難  
くて本当に困りましたが、決め手は豊富な教材、特に北海道・十勝  
地方のことが多く載っており、資料を掲載していることと、学習の  
進め方が楽しく問題解決的な学習ができ、その結果として基礎基本  
が習得できるのではないかと思い東京書籍を選びました。具体的な  
理由として、まず、判型が大きくて見やすく、それから写真やイラ  
ストなどの資料も鮮明かつ豊富に掲載しており、量、質ともに充実  
しているため、児童の学習意欲を高めることができると思います。  
また、高学年に選択教材を設け、地域性や児童の発達段階に応じて  
学べるような配慮もなされています。それから目次には学び方コー  
ナーを示し、巻末には学習した事項やまとめた日本地図を示し、ド  
ラえもんのキャラクターによる案内役など、児童が興味関心を持っ  
て主体的に学習できる工夫がなされていると思います。後は、何々  
さんの話として、仕事と社会活動に携わる人々の話も多く掲載して  
いるのも、道德教育との関連が図られると思います。取り上げてい  
る内容では、先ほど申し上げましたが、十勝の暮らしや農業を詳し  
く掲載していたり、アイヌについても掲載していたり、児童が身近  
に興味を持って学習することができ、さらには裁判員制度や東日本  
大震災、ゴミ処理やリサイクルなどの今日的话题も取り上げ、安全  
教育や防災教育、平和についての意識や国際教育、特別支援教育な  
どあらゆる配慮が見られます。あと、わが国の伝統と文化に関する  
優れた取り上げ教材も日本人としての自覚を育てるのではないかと  
思います。以上のような理由から東京書籍を推薦いたします。

田中委員長  
八鍬教育長

八鍬教育長、お願いいたします。

私もこれまでの社会科の教科書というところで、帯広の実態を踏  
まえたときに教育出版と東京書籍で悩みました。ページをめくりな  
がら、決め手になっていくのは、十勝の取り上げ方のところで、最  
終的には東京書籍を選びました。1つはサイズがA B判でとても大  
きくて見やすいということ、本当に全学年にわたって写真がすごく  
鮮明であること、それと色々なキャラクターやイラストを使いなが  
ら大変分かりやすくなっていて、資料も大変豊富で充実した内容に  
なっていると思いました。また、学年ごとにイラストはもちろんの  
こと、実在する人の顔写真を載せて体験談等を掲載するなど、地域  
の特徴だけではなく、地域の持つ課題、あるいは地域の文化財など  
を丁寧に取り上げていて、地域社会への興味・関心を持たせていく  
とともに、何人かの発言と重なるところはありますけれども、住ん

でいる所への郷土愛に近い誇り、あるいは親しみが感じられるような内容が多いと思いました。5年生のところでは、国土の気候あるいは特徴に関する学習の中で「寒い土地の暮らし」というコーナーがありました。とても広大な十勝平野の写真、あるいは十勝川、アイヌ関係で上士幌町を大変詳細に取り上げていましたし、十勝ならではの作物、暮らし、それからスピードスケート、そしてアイヌ文化など大変豊富な写真を掲載しながら、子どもたちが興味・関心を持ち、なおかつ自分の土地あるいは全国的な土地の色々なものと比較しながら、発展的に学習できるような工夫がなされているというふうに思いました。6年生では、改めて教えられることが多かったと思います。現代ならではの色々な子育て支援と政治、あるいは東日本大震災からの復興への取組み、国の政治の仕組みや憲法、あるいは平和主義などを丁寧に分かりやすく取り上げていました。また、世界の中の日本の役割とは一体何なのかということも考えるような記述があり、中学校で学ぶことへのつながりを感じさせるものとなっております。全体を通して東京書籍は充実した内容となっておりますと感じました。以上です。

田中委員長

私はかなり迷いまして、それぞれ一長一短がありました。先に結論を申し上げますと教育出版を選びました。確かに東京書籍は他の皆さん全員が言われておりました、十勝のことについて詳細に書かれているということもありますし、それからアイヌ民族の関係のことでも出ていますし、帯広の気候がデータで詳細に出ているというようなこともあります。それから、防災関係のところ、確か気仙沼のことで書かれており、身近なところから色々なところできちんと書かれていた教科書だと思いました。それから光村図書も悩んだ対象でもありましたが、歴史に関して、相当細かな詳細な記述があって非常に惹かれるものがありました。ただ、教育出版は今のとは全く逆で、かなりコンパクトにまとまっているように思いました。教育出版は全体的にそうなのかもしれないですけども、全体像をわりとはっきり見せているイメージがありました。特に社会科は暗記をしたり、覚えていかなければいけないというようなところで、児童、もしくは中学校に入った生徒、人によってはアレルギーになることがあると考えていった時に、やはりコンパクトにきちんとまとまっていて、覚えるべきところがきちんと分かり易くあるということは、かなり重要な観点になるのではないかと思います。十勝の記述については、それが教科書の大きなアドバンテージになるとは、実はあまり思えなかったということが個人的にはございました。ということで悩んで教育出版ということにいたしました。以上でございます。

田中委員長

他になければ、以上で発言は終了いたします。

各委員の発言を伺っておりますと、私以外の皆さんが東京書籍ということでございますので、私は皆さんの意見に従うこととさせていただきます。各委員の皆さんから何かご意見ございましたら承りますが、よろしいでしょうか。

各 委 員  
田中委員長

ありません。

それでは、社会の採択すべき教科書は東京書籍というご意見で全員一致しております。東京書籍を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため、暫時休憩いたします。

(暫時休憩)

再開いたします。

ここでお諮りをいたします。社会の採択につきましては、『問題解決的な学習過程を通して公民的資質の基礎を養うために、各学年の学習事項をしっかりと踏まえ、地域性や児童の発達段階に応じて社会科の学習への興味関心を喚起するよう、高学年では選択教材を設けるなど、学びのポイントが明確であること。A B判の大きな紙面であるため大変見やすく、写真やイラスト等の資料も鮮明で、量、質ともに充実しており、キャラクターによる学習の案内や実在する人の体験談などにより、児童が興味関心を持って学習することができるよう工夫がなされていること。国際、政治、リサイクル、法律、防災など、今日的な課題を丁寧に取り上げるとともに、インターネットの適切な取り扱いなど、子どもが自ら考える学習ができるよう配慮されていること。「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という一連の学習の進め方が明示され、学習への見通しがつきやすいよう配慮されるとともに、「いかす」を通して、社会的な事柄に関心を持たせ、実生活との関連をもとに学習を深めたり広げたりすることができるよう工夫されていること。豊富な教材や資料が掲載されており、中でも十勝の気候や暮らし、アイヌ民族の文化、スピードスケートなど身近な題材が多く、児童が郷土への愛着や誇りをもつことができるようになっていること。』などの点から、発行者、東京書籍の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

ここで休憩といたします。再開は13時10分といたします。

(暫時休憩)

再開いたします。

次に地図の審議を行います。地図につきましては、2種から採択を行います。それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお

願いいたします。

伊藤 委員

最終的には、私は帝国書院を推薦したいと思っております。東京書籍も帝国書院もほぼ内容的には同じ状況ではないかなと思っておりますが、サイズの面では東京書籍が見やすい部分では良いかと思うのですけれども、4年生、5年生、6年生の3年間を通して使うということから、地図を教科書の側に置いて地図を通して様々な気付きとか、あるいは調べるための地図帳でありますので、その辺のところが見通せるような形になっているかどうかという観点で見ました。地図の約束事という部分が非常に分かりやすく、そして整然と並べられておりました、4年生でも理解できるような排列になっているのではないかなと思っております。それから中身を開いてみると、地図上に様々な情報が記載されておりますが、あまりしつこくなく並べられていることによって、大変見やすい地図が帝国書院ではないかなと思っております。それで最後になりますけれども、私として東京書籍の地図は色が少し濃すぎるといような気がして、長時間見るには非常に疲れるような感じがしますし、その点、帝国書院の方は明るい色を使って色彩面では非常に気を使って、疲れをあまり感じさせないような形で印刷されているところが私としては非常に使いやすいのではないかなと思いました。それからもう1つ、地図を親子で見るとということについても、非常に資料も豊富でありますし、様々なデータも次々と織り交ぜていて、親子で地理的なこと、あるいは歴史もそうですけれども、文化全般についても地図から学び取るという面では、非常に使いやすいのではないかなと思っております。従って帝国書院を推薦いたします。

田中委員長  
門屋 委員

ありがとうございました。門屋委員お願いします。

私は前は帝国書院だったのですけれども、今回は東京書籍を選びました。内容的にはそれほど違いがあると思いませんが、色に関しては、今、伊藤委員が言われたような感覚を実は持ちました。一番違うところは、前回の時には東書はこんなに大きくなかったように思います。大きいのは大変見やすかったということが印象的で、A4判の大きさは良いというふうに思いました。ページ数も東書は8ページほど多くて、産業の紹介で第一次産業の職業生産と鉱工業の生産に分けて統計などを載せていて、北海道の農産物生産量について考えたりする工夫もあったように思います。自然についても日本だけの紹介と日本と世界を比較した内容を載せているなどの工夫が見られまして、地図の記号の中に世界ジオパークの登録地マークを独自に付けていて、歴史の舞台や建物については、帝国書院の方も紹介していましたが、そういう意味では関心があるというふうに思いました。地球儀と地図帳を組み合わせた学びをやっているという、地図というのはある意味、日本を中心にして全体を見せてしまうと

いうところが常識的になっていますが、世界は決してそうではなくて、大西洋を真ん中にした地図は諸外国にはたくさんあるわけで、そういう意味で地球儀を見渡せるということ、見る角度を色々に変えてみるということはやはり良いと思って、そういった教育にも配慮していたように思いました。北海道地図のところでは、小学生の案内人がアイヌ語に由来する地名の多さとアイヌ語の現在の地名を紹介していたのですが、北海道に住む私たちの知識として知っておくためにも大変良いと感じました。日本の自然災害についても、地震だけではなくて、台風や豪雨や雪害や火山などを紹介して、帝国書院は阪神・淡路大震災を取り上げ、東京書籍は東日本大震災を少し詳しく取り上げていました。新しい情報を載せていたという点でも私は東京書籍を選びました。

田中委員長  
市之川委員

市之川議員お願いします。

私も両者で随分迷いましたが、結果的には帝国書院を選びました。東京書籍はA4判と大判で見やすく、色彩も淡くて柔らかな印象を受け、内容量もすごく多くて、特に日本地図については詳しくページを割いており、都市部もかなり詳しく載っておりますけれども、しかし、世界地図に関しては少し物足りなさを感じました。一方、帝国書院は色彩も文字も鮮明であり、日本地図、世界地図のどちらも分かりやすくなっております。表紙についていえば、帝国書院はちょっと高学年が使用するにすれば、もう少し表紙の色合いを工夫して大人っぽく落ち着いたものにしても良かったのではないかと少し思いました。決め手は、北海道に関する内容が多く掲載されていることです。例えば、十勝平野の畑作の様子や釧路湿原、流氷の来る海岸、根室半島の地図を掲載するなど、児童が身近に興味、関心を持って学習に取り組めると思います。また、北方領土4島も北海道地図にすべて記載されています。それから巻頭には地図の約束事、地図帳の使い方が詳しく書かれており、日本列島とその周り、地方図、都市部への拡大図、さらに世界地図を取り扱うとともに、資料統計を排列して、系統的、発展的に学習ができるような工夫がなされていると思います。また、キャラクターの台詞によって地図の活用の着目点を示したり、ノートコーナーで解説や作業の指示をするなど、児童が主体的に学習できるように工夫されていると思います。以上のような理由で、両者で大変迷いましたが、帝国書院を推薦いたします。

田中委員長  
八鍬教育長

ありがとうございます。教育長お願いします。

私は帝国書院を選びました。サイズがA4判で教科書と同じサイズになるので、授業中もやっぱり机の上で使いやすいのではないかと思います。それと土地の高低差を示すその色合いが全体的に疲れない色彩で、なおかつはっきりしていて、全体的に明るく見やす



いと思いました。それと地図帳の成り立ち、あるいは地図帳を見る上での約束事、使い方が大変分かりやすく説明されていると思いました。それから十勝平野で作られているじゃがいもなどを取り上げながら、そういった作物の掲載ページもありましたし、やはり北海道全部の中で北方領土4島をしっかりと記載していて、そういう意味では児童が身近なところから、地図に興味関心を持つことができるような工夫がなされていると思いました。それと世界地図のところで、地図はもちろんですけれども、少し膨らませた中で輸出入の流れとか、各国の祭典、各国の日常生活や挨拶等を取り上げるページ等もあり、国際理解につながるような学びができるような内容となっていると思いました。以上です。

田中委員長

私は結論から先に言うと帝国書院が良いのではと思います。これはかなりどちらが良いのか本当に悩みました。判も大きいから見やすいということは門屋委員のご指摘のとおりです。それで一時、東書のほうが良いかと思いましたが、北海道が細かく入っていて、十勝のところを見てみると、池田町のところでワインのマークもきちり入っていたというようなことがあり、少なくとも北海道に関しては帝国書院の方が作り込みが良いのではと思いました。繰り返しになりますけれども、どちらを選んでもそんなに大きな差はないと思いましたので、非常に悩んだところでございます。もう1点、帝国も使っているのですけれども、東書の方は絵記号みたいなものがたくさんあって、最初は見慣れて良かったのですが、段々そのうち見づらくなってきたということも印象の点ではあります。いずれにしても帝国書院の方が良いという印象を持ったということでございます。以上でございます。

田中委員長

他になければ、以上で発言は終了いたします。

今、各委員のご発言を伺っておりますと、帝国書院が4名、東京書籍1名ということで、門屋委員、今のお話を聞いていて何かご意見はございますか。

門屋 委員

特別ありません。今、委員長が言われたように、あまり差があるわけではないので、そういう意味で言えば、帝国書院に決められることに同調します。

田中委員長

分かりました。ありがとうございます。他に何かご意見ありますか。

各 委 員

ありません。

田中委員長

皆様のご意見を総合いたしますと、地図の採択すべき教科書は帝国書院というご意見で全員一致しております。帝国書院を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するために暫時休憩

いたします。

(暫時休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。地図の採択につきましては、『確かな学力の基礎を習得するために、「地図の成り立ち」や「地図の約束事」等、地図帳の使い方に関する内容が詳細に記載されており、児童が系統的に学習することができるようになっていること。土地の高低差等がわかりやすいように、明るく見やすい色彩を使用するとともに、文字もはっきりと記載され、日本地図、世界地図ともに見やすくなるよう工夫がなされていること。世界に目を向け日本とのつながりを捉えるため、世界地図に輸出入の流れや各国の祭典、あいさつや日常生活を記載するなど、国際理解につながるよう工夫がなされていること。十勝の畑作の様子や釧路湿原、オホーツク海沿岸の流氷など、北海道に関連した内容を多く掲載するとともに、北海道全図では北方領土4島がすべて記載されるなど、児童が身近なところから地図に興味関心を持つことができるよう配慮されていること。「キャラクターのセリフ」によって地図の活用の着目点を示すとともに、児童が主体的に地図の学習をすることができるように工夫がなされ、親子でも地図に親しむことができるよう配慮されていること。』などの点から、発行者、帝国書院の教科書を採択することにご異議ありませんか。

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に算数の審議を行います。算数につきましては、6種から採択を行います。それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお願いします。

各委員  
田中委員長

伊藤委員

6種のうちから教出と東書の2社に絞り、分析させていただきました。結論としましては、私は東京書籍を推薦したいと思っております。その理由ですが、算数というのは系統性が非常に重視されますので、各学年、各単元ともに基礎基本の定着をとにかく重視し、並びにその反復の時間、あるいは内容といったものが非常に系統的になされていると思います。それらの学習を進めるにあたって、各単元に学習のめあてというものがはっきり出されており、考えるときの手がかりといったことをヒントにしながら、まずはベーシックな練習問題を行って、基礎基本について定着を図りながら、その後補充問題、あるいは「しあげ」「おぼえているかな？」といったことで新たな問題に挑戦、あるいは発展へと進める内容になっていて、子ども一人でも自学自習しやすいような内容になっているのではないかと思います。さらに数理的な思考を育てるということが非常に重要な部分でありまして、「算数マイノートをつくろう」というもの

を設定して、そこで自分の考えをまずは練りあげ、それを少人数等で伝え合うということによって、再び自分自身の考えに戻るといった面での数理的言語力の育成に非常に効果がある内容になっているのではないかと思います。算数というのとはできる、わかるということが基本でありながら、使えるという部分が欠落することがよくあるので、学んだことを使えるという面では、実生活の中との関連性から、その辺のところを使える、使ってみる、使ってみたらこうなったという算数科の面白さを実感させるような取り扱いになっているのではないかと思います。改定では重要事項という中で、教えるべき内容と考えさせる内容というのが、東書の場合は一目瞭然で分かるように配慮されておりまして、算数への面白さ、あるいはより高度なものへ挑戦する一方、下位児童においてもキャラクター等の吹き出しを見ながら、そういったお子さんの学習意欲を高めるという配慮もなされているのではないかと思います。最後に、算数は子どもにとってどちらかというとなしという押しえになりがちですけれども、小1プロブレム解消という観点から1年生の教科書を見ますと、数字を全面に出すことなく、教室の中でわいわいがやがやしながら、いつの間にか数への興味・関心を持たせるように配慮されていると同時に中学校の中1ギャップ解消につながるような、「中学校体験入学コース」というものも準備されていて、スムーズな形で中学校へ送り出すことができるような内容、あるいは排列、あるいは配慮がなされていることから、系統性を非常に重要視して、あるいは教えるべきことをきちんと教えて次に進むという段取りができあがっているのが東京書籍ではないかと思ひまして推薦したいと思ひます。

田中委員長  
門屋 委員

ありがとうございます。門屋委員お願いします。

私も伊藤委員と同じく東京書籍と教育出版を6社の中から選んで比較検討させてもらいました。結論としては、東京書籍を選択しました。教える内容は同じなのでしょうけれども、教え方に違いがあるという部分が見られたと思います。算数は日常生活との関係が分かりづらくなる教科といたしますか、算数は苦手になる教科の1つかもしれないのですが、基本的には人間の論理的な思考力とか、想像力などを高め、深める基本の教科と認識していますので、そういった視点が入って、自然と力が付いていくかということに焦点を当てて見させていただきました。そういう意味からも算数は日常生活で判断するとか決めるという時の日々の考えと行動する上での基本となっているということから言えば、学習過程も現実生活を取り上げて結びつけながら展開していくことが重要だと思ひました。そういう意味では、東京書籍は1年生の導入は、伊藤委員も言われておりましたけれども、現実生活の中で意識することから、自然のうちに数

を意識できるようなそういう成り立ちから始まって、自分たちと関わりがあることを十分分かった上で、自分にとって必要で役立つ視点から、足し算や引き算、時間を知る時計の見方から入っているのは良いと思います。工夫がたくさんあり、まず、所々に「おはなし」のコーナーが設けられ、普段の生活でよく使うけれども、なかなか取り上げられない歩合のことであるとか、あるいは変形している体積の求め方、例えば石の求め方などを教えたりして、あるいは6年生では7箇所も「おはなし」というのがあって、普段学ぶ機会の少ない内容について取り上げていたのは印象的でした。そういう意味では現実生活の中では役立つと思いました。「おもしろ旅行」というコーナーがあって、天才ガウスの10才の頃の実話を紹介していて興味深いと感じました。巻末に「算数の目で見よう」というのがあり、新幹線の所要時間や電力消費量などを取り上げて、算数の自習コーナーを数ページ作って、学んだことの総まとめをしているわけですが、他の教科書もそういうことをやっていますが、これは良いと思いました。もう1点は、算数の「新発見」のコーナーを作って、授業との関連があることについて別の角度から取り上げていたことが良かったと思います。展開の仕方は教科書の使い方、学習の進め方を示していて、必ず節々に「しあげ」のページを設けていることなど、学習の到達度を確認しながら進めていけることが良いと思いました。所々に「考えよう 伝えよう」を目立つようにして数ページ設けているのも、学ぶ上で子どもたちの注目を引き、関心を向ける工夫として優れていると思います。加えて、「マイノートをつくろう」という、ノートを使って実際の子どもの書き方を示しているところが良いと思います。見本というよりは、他の子どもはどんな工夫をしているかということが見えるような形にしたのは良かったと思います。習熟すべきことを単元で分けたり、時間の余裕を考えたりして、全体構成がなされているという理由から、東京書籍を選びました。以上です。

田中委員長  
市之川委員

ありがとうございます。市之川委員お願いします。

学校図書と啓林館と東京書籍を比較しました。それぞれに工夫があって、学校図書では問題の分量はそれほど多くありませんが、内容は実生活との関わりを取り扱ったり、写真も北海道のものを多く使っていたり、5年生6年生では中学校を意識した合冊になっています。また啓林館でも5年6年を合冊にし、6年間の見通しを持って取組めるような工夫がなされ、補充的な問題を含め分量が非常に多いなどの特徴があります。算数においては、段階的に積み上げていかなければ後の理解が難しくなり、1度躓くと嫌いになってしまう教科なので、導入がしやすいことと基礎・基本の定着が行えるかということを念頭において検討してみました。そういう点では東京

書籍が一番適切ではないかと思いました。特に1年生の導入と6年生のまとめというのは非常に重要で、入学直後の第1単元では学校生活の場面を取り上げて興味を持たせたり、6年生は合冊にして中学校の環境変化に順応できるような取り組みがなされており、幼保や中学校との連携に配慮されていると感じました。単元の導入においては、日常的な事象を豊富なイラストを用いて児童に興味を持たせ、各単元の前後には前に学習した単元名や次に学習する単元名を掲載することによって、つながりを持って系統的に学習することができるように工夫されています。それから門屋委員もおっしゃいましたが、ノート作りの指導によって、論理的思考や表現活動を定着させ、児童が主体的に学習できるように工夫されていたり、キャラクターの吹き出しやゲーム的要素、生活場面を取り入れて、学習意欲を高める工夫がなされています。内容も基礎・基本を定着させるような構成、問題分量が適切で、自学自習の学習習慣を身に付けるための自習コーナーで、「ほじゅうのもんだい」や「ふりかえりコーナー」を掲載し、さらには発展問題を掲載して、習熟度に応じた取り組みがなされております。指導者や保護者へのメッセージも掲載していて、連携を図っていると思います。以上のような理由から東京書籍を推薦します。

田中委員長  
八鍬教育長

ありがとうございます。八鍬教育長お願いします。

私も結論としては、東京書籍を推薦します。算数というのは学年が上がるにつれて、段々と苦手意識が出てくるのと思っています。そういった意味では、各学年、特に1年生の時に、どういうふうに算数に入っていくかということがとても大切な教科だなと思っています。1年生の教科書では、算数が好きになれるように、少しでも自分の生活に近いものになるようにということでは、キャラクターを楽しく配置しながら、丁寧な導入と展開がなされているというふうに思いました。それと算数は予習、復習を繰り返しやらなければならないと思うのですが、習った内容を活用して課題解決に当たっていく、あるいは習ったところを振り返りながら、常に基礎・基本を押さえながらやらなければならないと思っています。そういった意味では、基礎・基本的な内容を意識して、学習展開がなされる工夫がされていると思いました。それと一部重なるところがあるかもしれませんが、「ふりかえりコーナー」や「ほじゅうのもんだい」が加えられていて、「新しい算数を使って学習しよう」というコーナーでは、解説を設けて考えるための手がかり、ちょっとしたヒントを記載しながら、家庭学習の促進に寄与するような書きぶりがあったり、随所に留意事項がきめ細やかに示されているというふうに思いました。それと「算数マイノートをつくろう」というコーナーがあり、自分の頭をきちんと整理して、ノートに書いていくこ

とはとても大事なことだと思っています。このコーナーの中では、学習を振り返ることができるように、ノートの取り方が算数的といった考えの下で表現できるような工夫がなされていて、そういう意味では、自分できちんと分かってないと書けないというような言語活動への配慮もなされていると思いました。それと6年生では、次は中学に上がるということで、大変難しい分野に入っていくという不安もあるんですけども、「中学校体験入学コース」というのを後ろの方に掲載し、中学校への学習と結びつけるという配慮がされたものもありました。以上のことから、東京書籍を推薦します。

田中委員長

それでは私からですが、私も結論を先に申しますと、東京書籍を推薦させていただきます。重ならない形で少しお話をいたしますと、算数という科目は恐らく子どもの中でも好き嫌いがかなり大きく分かれてくる科目だろうと思います。理由は非常に単純で、分かる、分からないということが直結してくるのだろうと思います。要するに分からなくなるから嫌いになって、嫌いになるからさらに勉強しなくなるという悪循環だと思うわけです。教科書も低学年のうちから参考書を見るわけでもないでしょうし、誰かに聞いて勉強するということが少ないでしょうから、やはり教科書が1番の勉強のお友達になるだろうと思いますので、そうした時にどれだけ分かりやすく書いているかということがポイントになるというふうに思います。躓く理由は、多分そんなところが大きいのではないかと思いますので、そういう意味でいうと、細かくきっちり論理的に書き込んでいくことと、別解がかなり多く用意されていなければ辛いのではないかと思います。この2点で東京書籍が恐らく6社の中ではいちばん丁寧に書き込まれているし、別解も多かったのではないかと理解いたしました。それと巻末の話も皆さんのお話のとおりですし、ノートもそのとおりだと思います。あとは、印象ですけども、色使いも割りと見やすかったような感じがいたします。以上から私も東京書籍が一番良いのではないかという結論に達したということでございます。

田中委員長

他になれば、以上で発言は終了いたします。

今回、算数の採択すべき教科書は、東京書籍というご意見で全員一致しております。

東京書籍を採択することにご異議ありませんか。

各委員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため暫時休憩いたします。

(暫時休憩)

再開いたします。ここでお諮りいたします。算数の採択につきましては、『幼保小中のつながりや、日常的な事象や実生活との関連性

のある内容を重視することにより、児童が興味関心を持って、主体的、系統的に学習し、基礎的・基本的な力が身に付くように配慮されていること。単元ごとに基礎・基本の定着を図る練習問題、補充問題、発展問題が適切な分量で記載されており、少人数での学習や習熟の程度に応じた学習の充実、自学自習、家庭学習につながる配慮がなされていること。話し合い活動や、実際にノートを作るなどの活動を多く取り入れるとともに、1つの課題に対して別解が多く記載されているなど、児童の数学的表現力や数理的・論理的な思考力の育成を図るための配慮がなされていること。「算数マイノートをつくらう」では、適切なノートづくりによる児童の論理的思考の深まりや表現活動の定着など、算数的思考による言語活動を重視した構成となっていること。単元ごとの振り返り学習や巻末の補充コーナーなどにより、児童が学習の到達点を確認しながら手がかりやヒントをつかみ、個に応じた学習の定着度を高めることができるよう工夫されていること。入門期からの学習の積み重ねを重視し、キャラクターの吹き出しやゲーム的要素、生活場面を取り入れた学習、色彩などに配慮され、「算数の目で見よう」など、随時、児童が算数の楽しさを感じ、学習意欲を高めることができる工夫がなされていること。』などの点から、発行者、東京書籍の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に理科の審議を行います。

理科につきましては、5種から採択を行います。それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお願いいたします。

伊藤 委員

私は学校図書、教育出版、啓林館の3点に絞り、分析させていただきました。最終的には啓林館が好ましいと思いました。その理由については、算数科と同じように理科も児童の理科離れといった現象が起きている理由の中に、知識とか技能の部分、基礎・基本の部分の定着が不十分ということが言われており、小学校段階からその部分を強調し、中学校へつなげるということから、啓林館の場合はそういった点を重視した形で進められていると思います。また、そういった学習を進めるにあたっては、日常生活の中に様々な理科的な部分があるということに気づかせるということにも配慮されているのではないかと思います。また、学習過程の中においては、自分の考え、あるいは友達の影響等を話し言葉や書き言葉に変換しながら、話し合い活動を重視しているところも特筆すべきところではないかと思います。巻末において「理科プラス」が別冊として添付されていることは、いわゆる学習過程の振り返りや確認、そういった面で非常に学習効果を上げると同時に、次の学年につなげるため

に重要な資料として非常に効果的ではないかと思っています。さらに学習を進めるにあたって、学習ロードマップというものが非常に細かく掲載されておりまして、それに基づいて子どもたちが見通しを持って学習するということも素晴らしい構成になっていると思います。そんな中で科学の眼を広げることから、日本、その他の外国も同じですけれども、最先端を行っている科学者たちの記事やコメントは、子どもたちに科学的な好奇心をさらに抱かせることにつながるのではないかと思っています。また、先ほど申しましたように、理科の基礎・基本である知識、技能を修得するために、実験過程において非常に危険も伴うということから、危険マークを随所に配置し、気づかせるという配慮がなされていて、危険防止という配慮も十分なされているのではないかと思います。それから最後になりますけれども、理科的な思考をさらに発展させるということから、ITを使う、いわゆるインターネット検索への動機付けも適切になされていて、自学自習等もしやすいように、より科学的な情報を得ることもできるということも併せて述べられていて、子どもたちの科学の眼を育てることがより配慮されていると同時に、また、親子でもそういった教科書を参考にしながら、実生活の中で理科的な分野について、親子ともども気づくということ、そして、それを探求するというようなことにつながるような配慮もなされているという理由から啓林館を推薦したいと思います。

田中委員長  
門屋 委員

ありがとうございます。門屋委員お願いします。

私は啓林館と学校図書と大日本図書を比べさせていただいて、結論から言えば学校図書を選びました。大変迷ったところでもありますけれども、学校図書の表紙が印象的だったというのも1つにあります。基本的には科学者の顔写真があったことと、そこに書いてある写真が非常に綺麗だったと思います。「科学の芽を育てよう」と巻末の「考えよう・調べよう」も良かったですし、裏表紙の科学者の言葉がなかなか魅力的でした。表紙だけ見ていたような感じの話で申し訳ないですけれども、そんなところから入りました。全体を通して理科は、生活に役立つ知識と科学というイメージを強調する内容となっていたように思います。少し科学に偏重しているかなという感じがしないでもなかったのですけれども、各学年に共通して理科に対する学びの姿勢と学習の見通しを持てる「科学の芽を育てよう」という「見つめよう」「調べよう」「まとめよう」の3つをずっと貫いていて、簡潔で分かりやすく取り組み方を示していたと思います。読み物のコラムでは、理科が日常生活で生かされる、活用できることを紹介して、理科を学ぶ意義と動機を高める工夫がなされていたように思います。特に所々に子どもたちの学びプロセスの写真があって、その写真の笑顔が表情豊かで印象深かったです。導入年次の



3年生の教科書は実物写真が多くて、好感が持てて身近に感じられると思いました。所々に小さくまとめとして言葉の意味などの一口知識の説明があるのは役に立つと感じました。それぞれの課題ごとにチャレンジ実験など、確認を深めるためのページを設け、工夫されているという理由で学校図書を選びました。以上です。

田中委員長  
市之川委員

ありがとうございます。市之川委員お願いします。

教育出版と東京書籍と啓林館を比較しました。結論から言えば啓林館を選びました。最初の教育出版はキャラクターにアトムを用いて親しみを持たせたり、専門家からのメッセージを掲載したりするなどの工夫があって、マークを駆使したり、ノート指導にも力を入れたり、学習を進めていく上の順序が分かりやすいものになっていると思います。一方、東京書籍は自分と人々、自然との係わり、自分自身について、主体的に楽しみながら取り組めるような工夫がなされており、北海道に関連する内容も掲載されていたように思います。しかし、何といたっても啓林館の取り扱うボリューム、内容が他社に比べて特出したものがあり、理科に対する興味・関心を促す配慮が一番なされているなどと思いました。まず、学年ごとの巻頭に写真とともにテーマを設けているのも効果的ですし、単元ごとに「学習のめあて」を設定してあるので、児童が見通しを持って学習に取り組めるようになっています。それから、巻末に資料集やカードを設けたり、学習の活用に役立つような工夫がなされていたり、随所に「まとめよう」や「たしかめよう」「力だめし」などを設定することによって、振り返りやまとめの学習を行うにあたっての工夫があり、基礎・基本的な学力の定着を図ることができるようになっています。それから別冊「わくわく理科プラス」との対比を示してあるため、単元の導入がしやすく児童が主体的に学習に取り組むことができるようになっていますし、裏表紙には保護者宛のメッセージを設けて、家庭との連携を図るとともに、仕事へのキャリア教育との関連も見られます。内容も安全教育、環境教育への配慮もなされており、北海道の題材も多く掲載されています。結論といたしまして、写真や資料が充実していて、児童が自然に興味を持ちながら、発達段階に応じて系統的につながりをもって学習を進めることができ、さらに問題提起から見通し、問題解決に至るまでの展開がなされているため、基礎力が培われるための工夫が随所に見られます啓林館を推薦いたします。以上です。

田中委員長  
八鍬教育長

ありがとうございます。八鍬教育長お願いします。

私も結論は啓林館です。伊藤委員がおっしゃったように、理科というのは理科離れがますますあるのではないかと思いますし、自然も少なくなってきたこともあり、理科については自然に対する好奇心、わくわく感といったものとか、本物を見るという観察力、

あるいは実験を介して色々なことを発見したり、考えていく力を育成するというのがとても大事な教科だと思っています。それと目には見えないのですけれども、大気や水、あるいは電力、災害、動植物の成長など、日常生活の中にはたくさんあって、切り離せないそういった自然現象などの見方や考え方を養う大切な科目だと思っています。そういった中で、啓林館は全学年に生物、天体、あるいは自然現象などを取り上げた資料ページが豊富に設定されていると同時に、初めて見る、あるいは初めて触るであろう色々な器具の扱い方が大変丁寧に解説されていると思いながら見ていました。それと安全への配慮ということで、特に大事なところでは、マークを示して、安全配慮がきちとなされていると思いました。それと理科全体に言えることなのですからけれども、特に啓林館は写真、あるいはイラストが大変鮮明で豊富、しかも、バランスよく掲載されていて、なかなか本物を見ることが少ない現代では、子どもたちの視覚を通して正確な知識、あるいは情報が伝わるような工夫がされていると思いました。それと随所に自然環境を維持することの大切さ、あるいは命への尊厳といったことが伝わってきて、メッセージといったことが写真等を見ながら感じることができました。巻末のわくわく理科プラスは、各学年のまとめ活用が可能となっていますので、その中でも児童への問いかけをしながら、学習の振り返りがその都度できるような工夫もなされていると思いました。以上の理由で啓林館を推薦いたします。

田中委員長

ありがとうございます。私は結論を先に申し上げますと、啓林館を推薦したいと思います。私見ですけれども、理科という教科は基本的に自分の周りにある外界との驚くような出会いと言ったらいいのでしょうか、それが実は、その世界が極めて論理的に成り立っているんだということを、そういう仕組みの中で動いているということを理解することなのだろうと理解しております。その意味で言うと、やはり児童の一番初期の学習段階では、先ほど教育長も言われていましたが、写真などのリアリティみたいなものがとても重要な要素になってくるのではないかなと理解しております。全ての理科の教科書の写真なり、イラストは優れていると思いますが、やはり啓林館はちょっと出色というか、とりわけ素晴らしいのではないかと感じました。それがまず1点で、もう1つは、先ほど別冊の件の話がありましたが、やはり使い勝手がかなりいいのだろうと思いました。別冊にすることのリスクもないわけではないのでしょうかけれども、それでもああいう形で作られると、指導する側もやりやすいだろうと思いました。それから細かいところで、先ほどお話がありました、器具の使用の仕方、あるいは注意を喚起する記述の仕方についても、きちとなされていますし、それから話題のi P S細胞

だったと思いますが、山中先生の記事が確か啓林館で入っていたということもありますし、それから防災関係では、有珠山の噴火のところのマップが入っておりまして、身近な形になっているというふうに思いました。やはり理科は啓林館が一つ抜けているのではないかという印象を私は持ったという次第であります。以上です。

田中委員長

他になれば、以上で発言は終了いたします。

皆さんのご意見は、啓林館4名、学校図書1名となっておりますが、門屋委員から何かご意見はございますか。

門屋 委員

はい。啓林館と学校図書と大日本図書を選んで見ていたのですが、皆さんのおっしゃったことはよく分かります。それで基本的には單元ごとに、まとめようという形で振り返りがきちんとして、一つ一つ完結的に物事を伝えていくということも含めて、皆さんが言ったことも含めて、啓林館を選ぶのは当然だろうと実は思っています。私も前は啓林館でした。そういう意味では、皆さんが選んだことと同調したいというふうに思います。

田中委員長

ありがとうございます。今、門屋委員の方からお話がありましたので、皆さんのご意見を総合しますと、理科の採択すべき教科書は啓林館というご意見で全員一致しております。

啓林館を採択することでご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するために暫時休憩いたします。

(暫時休憩)

再開いたします。

ここでお諮りいたします。理科の採択につきましては、『單元ごとに「学習のめあて」を設定し、問題提起から見通し、問題解決までの展開、「まとめよう」という振り返りなどが設定され、児童が興味・関心を持って主体的に学習に取り組み、理科の知識や技能など、基礎・基本の定着が図られるようになっていること。写真やイラストが鮮明で資料も豊富であり、それらがバランス良く掲載され、視覚を通して正確な知識や情報が伝わり、自然への興味関心を抱かせるよう工夫されていること。単元の導入で活用できる別冊「わくわく理科プラス」では、児童が効果的に学習の振り返りや、確認をすることができるよう工夫されていること。巻末に資料集やカードを設け、児童の興味関心を促すとともに、安全教育、防災教育、環境教育への配慮がなされ、危険マークの活用や器具の使い方の丁寧な解説など、安全に関する配慮がなされていること。日常生活の中の理科に気づかせるよう配慮されており、最先端を走っている科学者たちの記事が掲載され、児童に科学的な好奇心を抱かせる工夫がなされていること。自然や生命の大切さについてのメッセージが強く伝

わっていること。』などの点から、発行者、啓林館の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に生活の審議を行います。生活につきましては7種から採択を行います。それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお願いします。

伊藤 委員

7種から2種を絞りました。学校図書と啓林館の2種で検討させていただきまして、結論としましては啓林館を推薦したいと思っております。生活科は子どもたちにとっては非常に授業の中に入りやすい教科の1つであります。国語や算数とはちょっと違って自分の生活との係わりが非常に強いし、それから幼稚園や保育所との係わりも非常に強い部分もありますので、そういった溝をできるだけ小さくするという、小1問題を最小限、あるいは解消するような形で取り扱われると思っております。生活科の領域というのは、4つの観点がありまして、自分と人、自分と社会、自分と自然、自分自身、この4点がそれぞれバランスよく配置されていると同時に、写真やイラストについては子どもの目線に立った写真やイラストであるなど、非常に身近な形で気づきがしやすくなっているということが言えますので、そんなことから自立への基礎を養うべき適切な内容になっていると思います。特に自分と人、自分と社会の部分においては、子どもたちの身近な地域の様々な人々との交流場面がイラストないし写真で掲載されており、自分自身を見つめ直したり、あるいは近隣の関係の方々との交流を通して、そういった方々の人となりを知ることが非常に効果的に掲載されているように思われます。学習の中で観察したこと、あるいは調べたこと、新たに気づいたこと等を、「せいかつたんけんブック」という別冊に記入しながら、それにプラス自分たちのノートも含めて、そういったことを書き込み、終わった段階で子どもたちが相互に伝え合うことで、生活科で狙う言語能力を育てることに非常に効果的ではないかと思えます。また、自分と自然について、イラストですけれど、同じ公園を季節ごとに繰り返し訪れるという設定になっていて、自分の身近な公園とタイアップしながら、子どもの日常生活に生きた形でその単元を扱うことができるのではないだろうかと思えます。そんな中で子どもたちが学習上、動かなければならない場面が多いことから、様々な危険も伴うものと思えます。そこで、理科と同じように危険マークを適宜配置して気づかせ、安全についての万全を期しているというように思われます。最後になりますけれど、巻末に「わくわくずかん」とか、「いきいきずかん」、これは発展的な気づき、新たな気づきがあったり、あるいは気づいたことを振り返った

り、再確認するためには非常に適切な配慮事項ではないだろうかと思えます。生活科は家庭とのつながりが非常に強い部分もありますので、親子でこの教科書を使いながら、望ましい生活習慣も同時に培われるような排列、あるいは配慮がなされているという理由から啓林館を推薦したいと思えます。以上です。

田中委員長  
門屋 委員

ありがとうございます。門屋委員お願いします。

私は啓林館と東京書籍と日本文教出版の3冊に絞って検討いたしました。結論から言えば日本文教出版を選びました。選んだ理由は、学校生活への導入というのは保育所や幼稚園などと違って、かなり大きな節目、人生の節目だと思っています。人としての自立を含む社会化プロセスの大切な導入時期ということから言えば、学校はどんなところで学校生活はどんなことなのか、この全体イメージが湧いてくるような導入部分は、オリエンテーションとしての重要性もありますので、日文は14ページにわたって、「たのしいことがいっぱい」から始まり、「ともだちできるといいね」「きをつけてね」「わたしのいちにち」「じゅんびとかたづけ」「じゅぎょうのやくそく」というようなオリエンテーションが含まれていて、学校探検は他の教科書よりはページ数が少ないんですが、これは実際に見学や探索をさせるということで十分に補えると思って見ていました。四季に即して花の育て方や戸外での遊び、ふれあい、観察などを通して、クラスメートとのコミュニケーションを通じた関係作りや協働体験と意識づけを深めるやり方は良いと思いました。四季折々の学びの最後に、「きせつのちがいをさがしてみよう」として、見開きで四季全体を見渡して学ぶことができる工夫がなされていたように思います。上巻と下巻で一貫して、自分を振り返ることをしているのが魅力でした。上巻では1年間を振り返り、「いまのわたし」として見つけ、自分について発表することによって、成長の気づきを促しています。下巻では「わたしのすてきがはばたく」として、16ページにわたって書かれていました。自分のストレングスに焦点化しているということ、生活経験が成長を助けることとなり、生活教科としての目標を明確にしているという理由で日文を選びました。以上です。

田中委員長  
市之川委員

ありがとうございます。市之川委員お願いします。

理科との関連から、私は啓林館に絞りました。この教科書は身近な人々や社会、自然との係わりを実生活に即した活動や体験学習を通して児童に関心を持たせており、幼保連携の活動を示して、自分自身の成長に気づかせるような内容になっていると思います。そして季節の変化に沿って興味深く学べるようにもなっています。裏表紙に保護者のメッセージを掲載しており、家庭においても生活を意識させて、連携を図ることができます。1、2年生というのは、ま

だ幼い時期なので、保護者にも意識させることが重要だと思っています。さらに道徳教育や安全教育、福祉教育との関連を図ることによって、命の大切さを実感させる工夫もなされていると思います。それから単元が4段階で構成されており、単元の導入から活動を広げて、さらに深まるように工夫されています。また、キャラクターの吹き出しやさっぽろ雪まつり、帯広の紹介など、児童の興味・関心を引き出したり、別冊「せいかつたんけんブック」は野外活動にも持参できるミニサイズにして、穴あけ加工の工夫などもされているのも活用に役立つと思います。以上のような理由で、季節の変化に沿いながら実生活に即した活動や体験学習を通して、社会や自然に興味を持たせ、幼保や家庭との連携を図りながら、導入から社会科や理科への自然な移行を促す工夫がされていると思われまます啓林館を推薦いたします。以上です。

田中委員長  
八鍬教育長

八鍬教育長お願いします。

生活という教科は1、2年生のための教科ということで、本当に集団生活、学校生活の基礎となる大事な時期なので、そういった意味では、自立への基礎を養う大切な教科だと思っています。そういった意味からも、自分の身の周りとの関連を持たせながら具体的な体験、あるいは身近にいる人たち、あるいは自然との係わりに児童が興味・関心を持ちながら考えていくという配慮がなされていることが大事だと思います。そういった観点から見せていただいて、結論としては啓林館を選びました。やはり生活という教科については、まず、何よりも自分自身との実生活の関連から身近に感じられるといった工夫が必要ですし、また、教科の目指すところは何かということが保護者にもしっかりと理解していただきたいといったこともありました。そういった意味では、そのメッセージが「保護者の方へ」と題してしっかりと伝えられているなというふうに思います。それと四季折々の自然、あるいは街の中の様子を児童に大変分かりやすく、イラストや写真を入れながら、四季の移ろい変化とともに、実際の人々の生活の変化を着るもの、あるいは身の周りのもので気づくことができるような写真やイラストが工夫されておりまして、学びを通して児童が自らの実際の生活、実体験と重ねながら、生活を学ぶことができるような工夫が随所になされているなというふうに思いました。それと別冊の「たんけんブック」ですけれども、大変コンパクトで、外に行って野外学習するときにも大変便利だと思いましたし、教科書全体を通して、大変写真やイラストも丁寧で豊富ですし、生活という教科の中で児童がより身近に感じられるような工夫がなされていると思いました。以上です。

田中委員長

ありがとうございます。私は東京書籍と啓林館で悩みました。東京書籍は、ページの作り込みが非常に良くできていた印象を持ちま

した。かなり完成度は高いのではないかなというようなページがありました。また、他の教科書にもありますけれども、防犯ブザーですとか、デジカメですとか、あるいはパソコンなども教材にしておりまして、そういうところに特徴を発揮しているというふうに思いました。一方で啓林館ですけれども、先ほど話ありました、何よりも、啓林館の特徴なのではないでしょうか、写真やイラストがやはりいいです。ちょっと主観的な言い方で申し訳ないのですが、出来が素晴らしいし、特にこの生活という科目に関して言えば、写真の中の人間の笑顔が非常に意識して写し出されているような印象を受けました。また、巻末の使い方もまとめ方も使い勝手がいいですし、それから先ほど「たんけんブック」の話が出ておりました。別冊を付すというのは啓林館のきつと特徴なのですね。これも使い勝手がいいのかなと思います。先ほども別なところで申し上げましたけれども、低学年で別冊を使うリスクはきつとあるのではないでしょうかけれども、それでもなるほどと思いました。それで少し悩んだのですが、啓林館と東京書籍であれば、啓林館ではないかと、何より小学校の低学年で学校の勉強が好きになるためには、やはり楽しい教科書の方がいいのではないかと思ったものですから、啓林館を推したいなと考えました。以上です。

田中委員長

他になれば、以上で発言は終了いたします。

門屋 委員

今、各委員のご意見を伺っておりますと、啓林館が4名、日文が1名ということになりますけれども、門屋委員いかがでしょうか。

私も啓林館と東京書籍と日本文教出版を検討した結果なので、異議はありません。そういう意味では、7社からそれだけ皆さんと同じような感覚で選んだわけですので。

田中委員長

ありがとうございます。それでは、生活の採択すべき教科書は、啓林館というご意見で、全員一致しております。

啓林館を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため暫時休憩をいたします。

(暫時休憩)

再開をいたします。

ここでお諮りをいたします。生活の採択につきましては、『生活科のねらいを達成する内容がバランスよく配置され、季節の変化に沿いながら、実生活に即した活動や体験学習を通して、身近な人々や社会、自然とのかかわりに興味、関心をもたせるような工夫がなされていること。子ども目線での写真やイラストを通して、より質の高い「気づき」を引き出すとともに、キャラクターの吹き出しにより、児童の学習意欲を喚起するなどの工夫がなされていること。幼・

保と小学校の低学年との連携を意識した内容が豊富に取り上げられており、児童が実体験を通して、自分自身の成長や身の回りの生活に気づけるような配慮がなされていること。別冊の「せいかつたんけんブック」は、コンパクトな大きさと、児童が観察したこと、調べたこと、新たに気づいたことなどを書き込むことができ、野外の活動の際に便利であるとともに、書く活動を通して、話し合いなどの言語活動の充実が図れるようになってきていること。裏表紙に「保護者の方へ」と題して、教科の目指すところをメッセージとして掲載し、道徳教育や安全教育・福祉教育に関連づけて、親子で命の大切さなどを実感し、望ましい生活習慣を意識できるようになっていること。』などの点から、発行者、啓林館の教科書を採用することに、ご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に音楽の審議を行います。音楽につきましては、2種から採択を行います。それでは各委員からご発言願います。伊藤委員お願いします。

伊藤 委員

結論は教育出版を推薦したいと思います。理由につきましては、学習指導要領の改定ポイントの1つに新たに共通事項という文言がありまして、私も共通事項とは何かということが最初分からなかったのですが、よく読んでみるうちにいわゆる音楽科における表現と鑑賞をとというものを分離して考えるのではなくて、これらを統合した中で音楽を聴き取り、あるいは表現するということにより音楽の楽しさや面白さ、あるいは美しさなどを感じ取るということに共通事項のねらいがあると理解しました。特筆すべきことは、各単元において子どもにとって、その共通事項で何を学ぶのかということをも明確にして、あるいは教師側にとっては、どの部分を大切に扱うべきかということも併せて掲載されていて、非常に分かりやすい音楽活動、音楽学習ができるような排列、あるいは内容ではないかなと思っております。具体的には、なじみの曲を基底にしながら、様々な楽曲を聴いたり、あるいは演奏したりといったことにつながるようになっていないかと思えます。特に和楽器への関心も高めるということにおいて、様々な和楽器に関する説明、あるいは文化的なことを含めて丁寧な取扱い、それだけにとどまらず、洋楽についてもその曲想の違いや面白さ、美しさなどを体験できるようになっています。巻末だったと思いますが、国歌、君が代が出ております。教出は歌詞の意味について、児童の発達段階に合わせた分かりやすい説明を加えているあたりが非常に好感を持った次第です。最後に、音楽を形成している要素、あるいは音色、リズム、速度、あるいは旋律、強弱、拍の流れ、フレーズとか、反復、あるいは間



いや答えといった、その音楽の元になることについて、ページごとに図解やイラストを交えたり、透明シートを使いながら分かりやすく説明しているということが非常に好感を持った次第です。そのほか日本の伝統、あるいは世界の各地の民族行事等も取り上げられていますし、中高学年の教科書には日本の著名な音楽家のメッセージですか、こういったものもあって、音楽への興味・関心をそそるといった効果があるのではないかと思います。そういった理由から教育出版が非常に好ましいと思います。以上です。

田中委員長  
門屋 委員

ありがとうございます。門屋委員お願いします。

ほとんど言われたような気がします。私も教育出版を選んでいきます。全体の構成は挿入写真や絵が綺麗で、配置がきちんと考えられていたという印象を持ちました。今、伊藤委員が最後に言った音楽家からのメッセージは4年生以降にあるわけですが、これは元ちとせさんとか五嶋みどりさんとか辻井さんが出ていて、これは良いというふうに思いました。それからもう1点は、裏表紙の前にある3ページにわたって、私は、多くの人知っているであろう歌、昔からある歌で継承して欲しいと思っていた歌がたくさんあって、これにも感心をしたところです。巻末に「音楽のもと」としてまとめで各学年に付けているわけですが、内容豊かに楽器や音符など音楽に関係あること全体が見えるような内容になっていて、「楽器図鑑」というところでは、幅広く6年間で本当に楽器全体が知れるような構成になっていたなと感じました。内容も低学年では、日常生活の中での音に関心を向けて、常に暮らしに音、あるいはリズム、様々な音源に気づかせながら、多様な音の集合として音楽があると導いていたことが、音楽という学科が日常との関わりの中で大変大事だと思いました。曲の選定についても、今どきの曲も取り入れていたのですが、今流行りの伊福部昭氏の「ゴジラ」が出ていたり、「花が咲く」もあり、違った曲を入れているというふうに思いました。後はほとんど伊藤委員が言われたとおりでして、色々な紹介を和楽器から色々やっているわけです。もう一点、ジャズを小曾根さんとオーケストラの共演というような形で見開きだったと思いますが、表していたのが私は良かったと思います。国歌の問題も、ちゃんと説明されていることが本当に良いなと思いましたし、誇りを持って歌おうということ、国歌問題が過去から現代に変わりつつあるというような意味を含めた取り上げ方は良いのではないかなということ、教育出版を選びました。

田中委員長  
市之川委員

ありがとうございます。市之川委員お願いします。

教育出版と教育芸術社を比較しまして、音楽の楽しさや音楽を愛する心情を養うという点はどちらも備わっていると思いましたけれども、歌唱、器楽、鑑賞の取り扱い内容が豊富で、全てにおいてバ

ランスが良く配置されているのは教育出版であるという結論に達し、したがって教育出版を推薦いたします。両社とも色々な工夫がなされておりました、教芸の方はわが国の伝統音楽や楽器を紹介しているものが多く認められて、裏表紙には祭りや楽器の写真を掲載しているのも印象的です。いわゆる教科書的学習というよりも、旋律作りや曲想や音色の変化を感じ取るような内容であると感じられるのも、執筆者に作曲家が多いという違いもあるのでしょうか。一方、教出の方は、まず、入門期には遊びの要素を取り入れて、音楽の楽しさに気づかせ、4年生以上には巻頭に著名な音楽家のメッセージを掲載するなど、児童の音楽への興味・関心を高める工夫がなされていると思います。あと鑑賞用で取り上げられている名曲も適切であると思いますし、今最も活躍されている演奏家を掲載しているもの適当であると思いました。また、伝統音楽を継承することにより、わが国の伝統文化に愛着を持たせ、さらには他国の伝統文化を尊重する心を育てるような配慮がなされているのも素晴らしいと思いました。北海道のソーラン節が歌唱と器楽の器材で取り上げられておりましたが、しかし、これについては教芸でも鑑賞用教材として取り上げております。また、3年生で美しい写真とともに日本の歌の富士山が取り上げられ、世界文化遺産に指定されたことや東日本大震災後の音楽の力による復興などの今日的な身近な話題も取り上げて、わが国を愛する心情を育てていると思いますし、他科との関連も図られると思います。また、学習を進めていく上では、それぞれに工夫がなされておりますが、教出では主要教材ごとに学習のねらいやマークにより活動のポイントを示したり、両開きの折込みページに透明シートを取り入れたりするなど、児童が興味を持って主体的に学習に取り組むことができる工夫がされていると思いました。オプション部分で学校の実態に応じて選択的に取組めるのも良いと感じました。以上のような理由で、音楽を楽しむ愛する心情や意欲を高め、基礎・基本が定着できるような配慮がなされて、全てにおいてバランスの良い教育出版を推薦いたします。以上です。

田中委員長  
八鍬教育長

ありがとうございました。八鍬教育長お願いします。

音楽については、結論としては教育出版を推薦いたします。音楽については、何よりも歌ったり器楽を奏でたりすることが楽しい、音楽の時間が楽しみだといったような時間であってほしいと私は思っていますし、お友達とそういう経験を通して豊かな感性あるいは情操が自ずと育っていくのではないかと思います。皆さんと少し重なりますが、やはり巻頭の方に辻井伸行氏などの大変著名な音楽家からの自分の苦労や生い立ち、様々なメッセージを掲載していて、大変感性豊かな子どもたちにはとても良いページだなというふうに思いました。巻末には全学年共通して大変豊富な資料が掲載さ

れていました。それと、目次の主要教材ごとに大変分かりやすいマークで、学習のねらい、あるいは学習のポイントを示していて、児童がそういったものを見ながら興味・関心を持って、音楽の学びに取り組んでいけるような工夫や配慮が随所になされているというふうに思いました。以上です。

田中委員長

ありがとうございます。結論を先に申し上げますと、私も教育出版が良いのではないかと思います。大雑把な言い方をすれば、教育芸術社の方は創作活動の色が非常に強いという印象です。それに対して教育出版は音楽の楽しさや面白さを広く児童に肌で感じてもらいたいというような感じがして、想定しているゴールが相当違っている教科書だという印象を持ちました。やはり万人に音楽の楽しみとか、親しみを感じてもらおうということですので、広く知られた曲、音楽をたくさん出すに越したことはないだろうと思います。先ほどゴジラの話をもとに委員もおっしゃっていましたが、音更町の伊福部昭氏、今年ゴジラに関してかなり話題になっているのもあり、かなりタイムリーであることとか、ルパンやエーデルワイス、ミッキーマウスとか、1年生ではトトロのマーチが確か入っていたと思います。誰でも知っているような身近な音楽がたくさんあったというのが大きなところですね。もう1点、重ならないところで、ジャンルの融合に相当自覚的な配慮が教育出版にあったような気がいたします。クラシックはクラシックとか、ジャズはジャズとか、ロックはロックというのではなくて、その経緯や成り立ちも含めて色々掲載されていたような印象を持ちました。私見ですけども、今は分かりませんが、かつては音楽の授業は嫌いだけれども音楽そのものは好きだという若い人たちがいたのではないかと思います。それはやはり身近な特にクラシックとか古典的な音楽をどう味わえるかということにかかってくるかと思いますので、この辺からしっかり面白いとか楽しいということが分かってもらえるような授業作りが求められているだろうというふうに思いますので、また言うまでもないことですが、音楽の感性が豊かだということは当然その人の感性も豊かになっていくだろうと想像できますので、その意味でも教育出版の方がより児童にとっては良い教科書ではないかと判断した次第です。

田中委員長

他になければ、以上で発言は終了いたします。

皆様のご意見を総合いたしますと、音楽の採択すべき教科書は、教育出版というご意見で全員一致しております。

教育出版を採択することにご異議ありませんか。

各委員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため暫時休憩いたします。

(暫時休憩)

再開いたします。

ここでお諮りをいたします。音楽の採択につきましては、『歌唱、器楽、鑑賞などの学習活動がバランスよく排列されており、資料や写真・さし絵がきれいで、児童の音楽を愛する心情や感性を育むとともに、入門期から音楽の楽しさや面白さを肌で感じ、基礎基本を定着できるよう工夫されていること。色々な人に広く知られている曲や、地元の作曲家の作品、児童にとってなじみの深い曲が数多く取り扱われるとともに、ジャンルの融合にも配慮され、児童の学習意欲を駆り立てる内容となっていること。「学習のねらい」が提示され、児童が主体的に学習に取り組むことができるようになっているとともに、「音楽のもと」としてまとめがあり、図解や透明シートを生かして、内容豊かに音楽全体が理解できるような構成になっていること。和楽器等の日本の伝統音楽や諸外国の民謡、著名な音楽家のメッセージなどの教材により、我が国の伝統文化へ愛着を持たせ、他国の伝統文化を尊重する態度を育むとともに、音楽への興味や関心・意欲を高める工夫がなされていること。国歌の歌詞の意味について、児童の発達段階に応じてわかりやすく説明を加えるなど、丁寧な取り扱いとなっていること。』などの点から発行者、教育出版の教科書を採択することにご異議ございませんでしょうか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に図画工作の審議を行います。図画工作につきましては、2種から採択を行います。それでは各委員からご発言を願います。伊藤委員お願いします。

伊藤 委員

結論から言いますと、日本文教出版が好ましいと考えております。理由につきましては、単元ごとに明確な学習のめあてというのが提示され、しかもその単元における重要項目についてアンダーラインにて子どもに知らしめているという、それに基づいて活動がなされるという配慮は非常に良いのではないかと思います。図画工作の場合は、児童の完成作品に目を奪われがちなのですが、この教科書は、製作過程、児童の写真、あるいは作品の手順を追って制作している過程を分かりやすく提示されていて、製作意欲の高揚に非常につながりやすいと思われまます。また、身の回りにある造形物をヒントに五感を働かせながら、自分なりのイメージを抱きつつ、広く社会や世界に目を向け、あるいは今日的な課題、国際理解、防災、あるいは福祉といったことについても、造形を通して関心を持たせるという配慮もなされておりますし、ただ作るということではなくて、図工科の中においても、自分のどんな考えで、どんな過程で、どんな材料でといったような形の発表する機会が多く取り上げられてい

るということは非常に好ましいのではないかと思います。また、教科書の随所に著名な作家の作品を数多く掲げているということは、小さい頃から本物志向というものも、一方では与えなければならぬだろうと私は考えますので、そういった観点から、著名な作家の作品が適宜掲げられていることは非常に効果的で、より質の高い造形意欲に繋がっていくのではないかと思います。それと同時に、教科書でそういった著名な作品を見ると同時に、地元の美術館、あるいは近隣美術館、帯広で言えば市民ギャラリーとか、あるいは市内で行われている各種個展への興味・関心も膨らんでいくのではないかと思います。図工、造形活動を日常の中に生かすということが出来る配慮が十分になされているのではないかと思います。巻末に「ぞうけいのもり」という部分があって、これは様々な資料編として扱うことができるので、子どもの学習意欲には非常に効果的ではないかと思い、日本文教出版を推薦したいと思います。以上です。

田中委員長  
門屋 委員

ありがとうございました。門屋委員お願いします。

結論から言えば、伊藤委員と同様に日本文教出版を選択いたしました。日文は日常出会う造形物や四季折々の生活行事に合わせた工作物、あるいは色調への関心を高める、実際に作品作りなどへと導く自然な流れの中で絵を描く、あるいは物を作る体験を通して図画工作を取り入れていることに一貫しているように思いました。児童が自ら取り組みながら学ぶ科目なので、楽しさが一番だというふうに思いましたので、そういう意味で楽しさがあると思います。自由な発想と他の人の発想との違いから、学び協働する体験学習効果は期待できると思います。3、4年生から「図画工作の広がり」というページを設けて、未来を見つめて、美術館とつながるなどとして関心を広げる、学習意欲を高める工夫がされていました。また、全学年に「ぞうけいのもり」のページを設けて、地域社会にある造形、生活道具のデザイン、動物などの形、色などへの注意や関心を高め、図画工作の面白さ、興味深さを工夫していたように思います。全学年の巻末には4ページから6ページにわたって、材料と道具を紹介して、使い方を解説することによって、知識を深め、実学として生活に役立つことを意識させることが良いと思いました。これは絵を描く、工作物を作るといった限られた図画工作ではなくて、生活の中に図画工作の知識と技能が必要であり、生かされているということ意識させ、芸術そのものが暮らしに溶け込んでいることを自然と理解させる工夫として意味あることと感じています。美術品の鑑賞について、子どもの作品もあり、有名な方たちの作品もあり、あるいは日本と世界の作品もあり、特にゲルニカを見開きで紹介しているのは、この作品のテーマである平和とか、命の尊さとか人間の怒りや悲しみ、時代背景などの歴史を学ぶことも絵からできるので、

絵画から人間の在り様に迫ることができる鑑賞の広がりや図画工作において学ぶことは大切と感じ、日文を選びました。以上です。

田中委員長  
市之川委員

ありがとうございます。市之川委員お願いします。

両社を比較いたしましたして、結論から言えば、日本文教出版を選びました。最初に開隆堂を見させていただいた印象は、表紙の絵が鮮やかで判が大きくて児童の作品も多かったように思います。また、初めの方にアーティストの写真、コメント、作品を掲載して、本物の美術に触れさせることによって、児童の興味・関心や意欲を高める工夫がなされていると思いました。しかし、次に日本文教出版を見させていただきまして、決め手はいくつかありますが、第1に児童が主体的に学習に取り組めるような教科書であると思いました。まず、各単元で学習のめあてを明確にし、伊藤委員もおっしゃいましたけれども、大切なところをアンダーラインで引いたり、活動の種類を色分けしたり、吹き出しで活動のヒントを教えているので学習しやすい配慮がなされています。また、題材も児童の発達段階に応じたものが取り上げられ、6年間を見通して系統的に構成されていると思います。さらに巻末には授業で取扱う材料や用具について、分かりやすくまとめられており、内容についても福祉、人権、国際理解、環境、防災教育、幼保小中連携などの今日的共通課題が取り上げられています。また、低学年では児童の作品を中心に掲載することによって、興味・関心を引き出し、高学年では著名な作家の作品を掲載することにより、国内外の本物の芸術作品を鑑賞させ、さらに作品について発表したり、話し合ったりする活動に取り組みやすい工夫がなされたりしています。以上のような理由から日本文教出版を推薦いたします。

田中委員長  
八鍬教育長

ありがとうございます。八鍬教育長お願いします。

私も結論から言いますと日本文教出版を推薦します。やはりこの授業も自ら作ったり、鑑賞したりということを通して楽しい時間であって欲しいと思います。そういったことを通して、また、豊かな感性も伸ばしていけるというふうに思いますし、感動する心も育むことができる教科だと思っています。日本文教出版について、皆さんと重なるところが大変多いのですけれども、学年の目標、あるいは基本の内容が的確にそれぞれ示されているほか、「教科書美術館」というところでは折込みページを設定して、大変多くの様々なジャンルの作品を鑑賞できるような工夫がなされていること。「ぞうけいのもり」では、国内の作品はもとより、世界的な街並み、家屋などの美しい風景が掲載されていて、鑑賞力を大変豊かに高める工夫がなされているというふうに思いました。それと身近な等身大の児童作品と併せて、フェルメール、ピカソや藤田嗣治などの本物の作品を鑑賞するといった力を育む作品も多く掲載されていました。そ

れと同時に平和、あるいは人権といったものを思わせる今日的な課題にも目が向けられるような配慮がなされていました。そういった意味で、作品鑑賞を通して、子どもたちの心の醸成につながるような工夫が随所に感じられました。以上です。

田中委員長

最後に私ですけれども、私も日本文教出版を推薦したいと思いません。理由は皆さんに言われてしまったことばかりです。一番大きいのはやはり著名な作家、作品が数多く掲載されていることです。他には児童の活動内容がダイナミックな印象でした。身体で鑑賞とか、結構ダイナミックな教材を掲載しているという、これは書写のときに話はありませんでしたけれども、結局芸術というのは身体全体で表現していくということになってくるところがあると思いますので、それは早い段階からこういう形を踏まえて作っているというのはなるほどと思いました。それから中学校へのつなぎをかなりしっかり把握して押さえているという点、それからこれは個人的な印象で申し訳ないのですけれども、開隆堂の方はわりと子どもの創作作品が多いのですが、逆にそれが子どもの造形、表現意欲みたいなものを削いでしまうと言い過ぎですけれども、つまりそれを目標にしてしまうということがあるかと思えます。むしろ名作などであれば、それとしての鑑賞に対する視点のようなものが広がっていくのではないかなと思っておりました。最後にもう1点、本物の作品に触れるということが、つまりは図画工作に対する好き嫌い感をなくしていくことにもつながるのではないかと、あまり工作が得意ではなかった人間としては、そういうふう思うところもありました。以上のような理由で、日本文教出版がいいのではないかと考えております。以上です。

田中委員長

他になければ、以上で発言は終了いたします。

皆さんのご意見を総合いたしますと、図画工作の採択すべき教科書は、日本文教出版というご意見で全員一致しております。

日本文教出版を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため暫時休憩いたします。

(暫時休憩)

田中委員長

再開いたします。

ここでお諮りをいたします。図画工作の採択につきましては、『各単元において必ず「学習のめあて」を提示し、アンダーラインや色分けを利用してわかりやすくしているなど、児童の製作意欲の高揚につなげる工夫がなされていること。発達段階に応じて、ダイナミックな活動内容を重視した題材が6年間を見通して、系統的に配置されており、児童が主体的に学習できる配慮がなされていること。

巻末に「材料と用具」のページがあり、生活の中に図画工作の知識と技能が生かされていることや芸術そのものが暮らしに溶け込んでいることを理解させる工夫がなされていること。造形や作品鑑賞を通して、命の尊さ、人権、平和、福祉、防災、国際理解、幼保小中連携など今日的共通課題に目が向けられるよう工夫され、児童の豊かな心の醸成につながる配慮がなされていること。「ぞうけいのもり」や「教科書美術館」で、低学年は児童の作品を中心に、高学年では著名な作家の作品等、国内外の様々なジャンルの作品を折り込みページにて掲載し、児童の鑑賞の広がりや鑑賞力を高める工夫がなされていること。』などの点から発行者「日本文教出版」の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に家庭の審議を行います。家庭につきましては、2種から採択を行います。それでは各委員からご発言願います。伊藤委員からお願いします。

伊藤 委員

結論は開隆堂が好ましいと考えます。理由につきましては、学習指導要領の中の重要なポイントの1つとして、家庭生活を大切にするという心情というのが盛り込まれており、この部分は非常に児童の生活習慣あるいは家族関係等についての心情を高めるには欠かせないものであるということから、ストーリー性のある絵、あるいは写真が巻末まで掲載されていて、その写真の中に自分を投入しながら、自分の家族あるいは友達関係等について考えさせたり、あるいは気づかせたりすることに非常に効果的な内容になっているのではないかと思います。さらにそういったことから自分自身の生活のあり方について学習を広め、あるいは深められていくということにつながっているものと思われま。中学校から移行してきた五大栄養素について、食に関してのことですけれど、これを実生活の中にその意義やその意味、活用法などが具体的に示されており、自分自身の食生活への改善、あるいは創造につながるような取り扱いになっていると思います。それに併せて消費生活、環境、安全といったことについても、基礎的・基本的な事項の習得を目指しているということが掲げられており、非常に内容が深いのではないかと思います。こういった学習を進めるにあたって、家庭科においても、「学習のめあて」を具体的に明示して、それが学習過程において、様々な学習内容がありますけども、「できたかな」や「ひとロメモ」といったところに目を向けさせ、振り返りや成果といったものを改めて考え直すといった配慮がなされているのではないかと思います。総じて家庭生活を大切にするという心情を2年間にわたって学習するということを非常に重要視している教科書ではないかなと思います。した



田中委員長  
門屋 委員

がって開隆堂を推薦したいと思います。以上です。

ありがとうございます。門屋委員お願いします。

私も開隆堂を推薦いたします。5年生6年生の生活の区切りをきちっとつけていると思った教科書でした。買い物のことが両方に載っていますが、買い物の収入と支出の関係の中からきちんと考えていることと、通信販売の使い方が具体的に注意喚起することが書かれていて、現代的には必要なことだと思いました。6年生の開隆堂の教科書には「わたしの生活時間」ということで、伊藤委員も話しておりましたが、家庭生活を中心に考えていると感じた教科書で、生活リズムなど単に自分だけの生活リズムではなく、家族とのふれ合いや時間合せの工夫などをあげていて、本人一人だけの生活リズムにしないということをもう一度ここで確認したり、家族や周囲との関係性とバランスを意識させる内容が良いと思いました。家事の中での役割としての食事づくりと「クリーン大作戦」としての掃除を取り上げていますが、家事には色々あることと、それらの生活に必要な基本行動として一連の流れを作り出しているのは良かったように思います。学校生活での清掃当番とか家庭の中での役割というようなことへの家事へ関心を向けるというようなこと、あるいは役割を果たしているかということについてもつながりを付けていて、先ほど伊藤委員はストーリー性と話していましたが、私もそれを強く感じました。基本的生活を作る上で大切なものと感じた、「参考」とか「発展」のコラムを設けていたり、「環境」とか「消費」とか「防災」というような表示によって注目させ、学習意欲を高める説明があったと思います。最後の方に、共に生きるというものがあることで、最後の章として、家族関係、気持ちを伝えるコミュニケーションの重要性と地域社会との関係についても学ぶことができる構成になっていたところも、私は家庭という教科書からして良かったということで、開隆堂を推します。以上です。

田中委員長  
市之川委員

ありがとうございます。市之川委員お願いします。

私も開隆堂を推薦します。この教科書では、主人公が2人の小学生となっておりまして、学習対象は家庭生活というふうになっていると思います。表紙を開くとそこからガイダンスが始まって5年生6年生の2年間を見通したストーリー性のある構成と題材を取り上げています。そして自分の成長を見通せるようになっていると思います。目次を開きますと、左のページは5年生、右のページは6年生の題材を配置して、課題解決的学習ができるように、中心にサークルを設けて学習の進め方を示しており、5年生から6年生に向かって、大きな矢印で伸びていくような形になっています。学習のめあて、導入、展開、まとめと学習のプロセスが分かりやすいので、見通しを持って学習ができるようになっていると思います。題材名

は学習内容が一目で分かるようになっておりまして、課題を導入時に提示し、イラストや写真を用いて、学習課題を分かりやすくするような工夫もなされています。5年生、6年生の終わりには、書き込み欄を設けて、学習の振り返りと次の学年への学習につなげる工夫がなされていると思います。それから題材も季節に配慮して、安全教育、食育、伝統文化やキャリア教育、消費者教育など様々なものが取り上げられ、他教科との関連もマークを用いて図られるように工夫されています。食育では食物アレルギーについても取り上げられています。調理実習例や製作例も豊富に取り上げられていて適当だと思います。以上のような理由で開隆堂を推薦します。

田中委員長  
八鍬教育長

ありがとうございました。八鍬教育長お願いします。

私も開隆堂を推薦します。なるべく重ならないように話をしたいと思います。開隆堂では実習している写真が多く載っているのですが、角度がちょうど児童目線ということで大変見やすいですし、写真も大きく色々掲載されていて、子どもたちにとって扱いやすいと思いました。少し重なりますけども「チャレンジコーナー」の中では、「環境」「防災」「消費生活」などの今日的な課題を通して、児童が学習するようにきちんと工夫がなされていると思いました。調理器具、あるいは食品など多項目にわたって、日常生活、自分の台所などの密接な用具との関連を持たせながら、改めて名称、役割などをきちんとレイアウトして、配色を工夫しながら、分かりやすく掲載していると思いました。学習で使われている用語検索、あるいはページの一番下の方に「ひとロメモ」というのが各項目にあって、改めて「ひとロメモ」を通して大切なことを学んでいけると思いました。以上です。

田中委員長

ありがとうございました。私も開隆堂を推薦したいと思います。ほぼ今までの四方の委員の皆さんの話で出尽くしてしまいました。調理の時の話をしようと思いましたが、それも先に教育長が話をされました。東京書籍の良いところを逆に話しますが、自由研究の項目を作っていて、ここはなるほどと思って見ておりました。それから「買い物名人」というところは消費者教育の一環として、開隆堂も同じですけども、今日的な問題提起をしていると思いましたが、完成度が開隆堂の方が高いと思いました。以上でございます。

田中委員長

他になれば、以上で発言は終了いたします。

皆様のご意見を総合いたしますと、家庭の採択すべき教科書は、開隆堂というご意見で全員一致しております。

開隆堂を採択することにご異議ありませんか。

各委員  
田中委員長

異議なし。

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため暫時休憩いたします。

(暫時休憩)

再開いたします。

お諮りいたします。家庭の採択につきましては、『巻頭部分のガイダンスや、ストーリー性のある単元構成、豊富な調理場面の写真掲載など、2年間の学習の流れが明確であり、児童が自分自身の生活を見つめながら、見通しをもって主体的に学習できるようになっていること。「チャレンジコーナー」では「安全」「防災」「消費生活」「環境」「食育」などの今日的な課題を通して、児童が基礎的・基本的事項の習得を基盤としながら、系統的・発展的に学習できるようになっていること。単元ごとに「学習のめあて」が明示されており、「できたかな」「ひとロメモ」に目を向けさせることにより、児童が日常生活の振り返りを意識して効率的かつ効果的に学習できるようになっていること。他教科との関連を示すマークやレイアウトや配色の工夫により、児童が学びやすく、学習の定着や振り返りを大切にする配慮がなされていること。6学年の最後の単元においては、生活リズムの大切さや気持ちを伝えるコミュニケーションの重要性、地域社会との関係性など、家族や周囲との関係を大切にする心情について学ぶようになっていること。』などの点から、発行者、開隆堂の教科書を採択することにご異議ございませんでしょうか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に保健の審議を行います。保健につきましては、5種から採択を行います。それでは各委員からご発言願います。伊藤委員お願いします。

伊藤 委員

5種の中から2種、東京書籍と学研を選びまして、最終的には学研が望ましいのではないかと考えております。その理由につきましては、児童個々の自分自身についての健康安全等について、まずは振り返ったり、あるいは再確認したりしていく中で、地域社会の方々との係わりや自分を取り巻く多くの関係者によって、自分自身が支えられているのだということを学び直すということを系統的に、あるいは発展的に掲載されているのではないかと思います。特に5、6年生においては、心と体に関して大なり小なりの不安や心配があるわけですから、その辺について分かりやすく様々な資料や体験談が多く掲載され、安心感につながるようになっているのではないかと思います。特に男女の体のつくりや発達に関しては、必要以上の掲載内容にはなっておらず、親子でオープンな形で学べるような取り扱いで、非常に好ましいのではないかと思います。その中で正しい知識や理解を学ぶことができると思っております。そういったことをさらに発展させるという意味から、「もっと」というコラム、「もっと知りたい・調べたい」といった各種資料が広範囲に載せら

れていて、それをさらに客観性を帯びさせるための、「かがくの目」というのが随所にちりばめられており、健康への興味・関心を高めることに役立つのではないのでしょうか。それから危険予知力、あるいは各種予防に関する単元も具体例を出して掲載されております。例えば、自転車事故とか各種伝染病、喫煙、飲酒、薬害といったものに対して、事前に十分に認知し、そして自らを律して、予知あるいは予防への意識高揚につながっているのではないかと思います。最後に、保健に関する情報はインターネットで知り得る情報が結構あるのではないかと思いますので、そういうインターネットからの情報の功罪などについても分かりやすく説明され、注意喚起を促していることから適切ではないかと思います。したがって学研を推薦したいと思います。

田中委員長  
門屋 委員

門屋委員をお願いします。

私は最終的には光文書院を選びました。光文書院の入り方の「健康を探そう」ということから入り、導入部分に感心したところでもあります。健康を説明するのではなくて、自分の事から入っていくというやり方が良かったと思いました。生活リズムという言葉を軸として、1日の活動を分かりやすく説明していましたし、自分の体について、日々の暮らしの中で毎日どんなことを体についてやっているのか、あるいは気を付けているのかということ意識させて、その行動の1つとして、清潔行動の確認を個別にさせることで気づきや自覚を促す内容となっていたと思います。3、4年生のまとめとして、生活リズムを基本として、睡眠、食事、運動が健康であるということについて大変大きく書かれていたこと、これは大事だというインパクトを与えるような表現の仕方をしていたのは気に入りました。心の健康では、小さい頃と現在の自分との比較を具体的に表して、成長の変化を自覚させるということから始めていまして、心と体の関係では、自己チェック表を用いて気づかせるような工夫をしていました。また、他の教科書では見られないストレスについての説明も取り上げていまして、それはそれなりに高学年になれば、そういうことを意識してほしいと思った次第です。危険から身を守るとして、地震や津波を詳しく取り上げていたのは時代に合わせている配慮が見られていましたし、最近、重要な健康対策では、熱中症についても下段のところでも取り上げ、その後、そのことの確認として、体の病気のところで問題点として再度取り上げており、生活の中での予防を促しているというようなことが行き届いていたと思います。病気については、生活習慣病を具体的に取り上げて説明していたのも、疾病予防の啓発として良かったと思います。全体的には他の教科書も良いのですけれども、分かりやすいこと、簡潔だという印象を受けまして、私は光文書院を選択いたしました。以上で

す。

田中委員長  
市之川委員

ありがとうございました。市之川委員お願いします。

保健は5社を比較しました。最終的には学研を選びました。簡単に申し上げますと、東京書籍は記入欄を設けて書き込めるような工夫がなされていたり、大日本図書はシールを取り入れて児童が興味を持って学習できるような工夫がなされていたり、光文書院は食育コラムを設けたり、文教社は学習したことを生活につなげるような工夫がなされていたり、それぞれ特徴がありますが、最終的には大判で見やすく、内容も豊富で、発展的課題を取り上げており、分かりやすく学習を進めていくことができると思われまますので、学研を選びました。今申し上げますように、学研は活字も大きくて見やすく、重要語句も太字でポイントがつかみやすくなっています。資料や図表も分かりやすく、児童が興味を持って学習できると思います。まず、健康の大切さを認識させるような導入となっており、各項の始めに学習課題を明示し、課題解決的に学習を展開していきける構成になっています。取扱内容も思春期の性の悩み、喫煙、飲酒、薬物の害、生活習慣病など、心と体について発達段階に応じて、日常生活に密着したものを取り上げており、他教科との関連を図りながら、随所にグループ活動による協同学習の課題も取り上げています。また、単元の始めには、学習課題を明示し、各章末には学習のまとめを設定し、児童が学習しやすく、習得知識の確認をしたり、生活への活用につなげることができるような工夫がなされていると思います。以上のような理由で学研を推薦いたします。

田中委員長  
八鍬教育長

八鍬教育長お願いします。

私も結論としては学研を推薦します。重ならないようにしたいと思います。写真がたくさんありましたけれども、同じ年代の児童の写真が大変多くあると感じました。そういった意味では、自分との生活が非常に身近に感じられるところがあると思っておりまして、学習の大切な点、あるいは全体の流れが同じ年代の児童の写真の中から見やすく分かりやすい工夫がなされていると思いました。5、6年生については、3、4年生の学習と関連性を意識的に取り上げて、振り返り学習、あるいはここで学ぶことを明確に出しながら、3年生から6年生までの4年間の学びに継続性を持たせていて、発展的に課題、問題が用意されて、その学びを深めたり、興味を高める工夫が通してなされていると思いました。それと年代の悩みでもあると思うのですが、喫煙、飲酒、薬物乱用といった影響を大変分かりやすく丁寧に捉えていますし、内容も充実していると思いました。全体的に分かりやすい資料や図解、解説がなされていて、学ぶ上で大切なことが分かりやすく掲載されていると思いました。以上です。

田中委員長

ありがとうございました。私も学研を推したいと思います。5社全部を読んでみたのですけれども、それぞれ良いところがあります。市之川委員からもお話がありまして、各社それぞれ良いところがあるわけです。学研は何より読みやすかったのがまずありました。それから巻末の「もっと知りたい・調べたい」が一番使いやすそうに感じました。その2点で他社より良いのではないかと判断をいたしました。先ほどお話しに出ていましたけれど、インターネットに関しても、安全な使用についての記載も出ておりましたし、バランスは一番いいのではないかと思いつながら読ましていただいた次第です。以上でございます。

田中委員長

他になれば、以上で発言は終了いたします。

学研4名、光文書院1名ということですが、門屋委員いかがでしょうか。

門屋 委員

結論から言えば、学研でよろしかろうと思います。

田中委員長

ありがとうございます。それでは、皆様のご意見を総合いたしますと、保健の採択すべき教科書は学研という意見で全員一致いたしました。

学研を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議がないようですので、採択理由を確認するため暫時休憩いたします。

(暫時休憩)

それでは再開いたします。

ここでお諮りをいたします。保健の採択につきましては、『各学年の発達段階に応じた内容がバランスよく、系統的に配置されており、学習に継続性をもたせるとともに、学習の大切な点や全体の流れが見やすく、わかりやすいこと。単元のはじめに学習課題が明示され、児童が課題解決的に学習できるように工夫されているとともに、巻末には発展的な課題や問題が用意され、学びの深まりに配慮されていること。大判で活字も大きく、重要語句が太字で書かれる等、児童が学習しやすいように工夫されているとともに、同じ年代の児童の写真が多く掲載され、児童が保健の学習を身近に感じることができるようになっていること。思春期の性の悩み、喫煙、飲酒、薬物乱用、生活習慣病、インターネットの情報の功罪など、現代的な健康課題や日常生活に密着した題材について、より具体的に取り上げられ、資料や図解、体験談も多様で充実しており、親子でも学べるようになっていること。グループの話し合い活動を生かすことで、児童の自律的な実生活と結びつける工夫がなされていること。』などの点から発行者、学研の教科書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に特別支援学級の審議を行います。特別支援学級の教科用図書につきましては、事務局の説明にあったとおり、改訂が行われておりません。平成26年度に使用している文部科学省著作の教科用図書について審議を行います。各委員からご発言があればお願いいたします。

各 委 員  
田中委員長

ありません。

別になければ以上で終了いたします。

ここでお諮りいたします。特別支援学級の採択につきましては、文部科学省著作の教科用図書を採択することにご異議ありませんか。

各 委 員  
田中委員長

ありません。

ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

以上で議案第57号、小学校用教科用図書の採択についての審議は全て終了いたしました。

日程第5、その他に入ります。教科用図書の採択に係る情報の公表についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

嶋崎 部長

教科用図書の採択に係る情報の公表につきましてご説明いたします。昨年度、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律が一部改正され、教科書採択に関する信頼性を確保するという趣旨により、教科書を採択したときは、採択結果及び理由等を公表するよう努めることとされたところであり、また、北海道教育委員会の平成27年度に使用する小学校用教科用図書の採択基準におきましても、採択結果及び理由等の公表を積極的に行うことと示されておりますとともに、公表の方法については、教育委員会において決定するよう示されているところでございます。これらのことから、今年度の小学校用教科用図書の採択に係る情報の公表につきましては、採択した教科書発行者名一覧、採択理由、本日の教育委員会会議の会議録、教科用図書選定委員会からの答申書及び調査研究資料などを遅滞なくホームページで公表したいと考えているところでございます。また、このうち採択した教科書発行者名一覧につきましては、本日の教育委員会会議終了後、準備が整い次第、報道機関へ通知しようと考えているところでございます。説明は以上でございます。

これから質疑に入ります。

田中委員長  
各 委 員  
田中委員長

ありません。

別になければ、質疑を終了いたします。

教科用図書の採択に係る情報の公表方法については、事務局からの説明のとおり行うことにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認めますので、事務局においては、そのとおり対応してください。

ここで、私から一言ご挨拶を申し上げます。

平成27年度から使用いたします教科用図書につきまして、6月の選定委員の委嘱から始まり約2ヵ月をかけ、本日の教育委員会会議におきまして採択されたところでございます。委員の皆様にはこの間、連日にわたり調査・研究を行っていただき、また、本日は採択の審議を午前10時から長時間にわたりまして慎重かつ適正に進めていただき、大変ご苦労さまでした。帯広の将来を担う子どもたちのために、より適した教科書の採択に最後までご尽力いただきましたことに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。また、事務局の皆さんにもこの間色々とお骨折りをいただきました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。以上です。

事務局からの説明は以上であります。この際、各委員から他にご意見、ご質問等があればお受けいたします。

各委員  
田中委員長

ありません。

別になければ、本日予定されておりました案件は、すべて終了いたしました。

以上で平成26年第17回帯広市教育委員会会議を閉会いたします。